



下水道モニター

令和2年度 第2回アンケート結果

東京都下水道局では、様々な事業を行っています。

第2回アンケートでは、下水道の浸水対策・家庭での浸水対策についての認知度や評価、降雨に関する情報の利用方法などに関してご意見や評価を伺いました。

この報告書は、その結果をまとめたものです。

- ◆ 実施期間 令和2年7月20日(月)～8月2日(日)14日間
- ◆ 対象者 東京都下水道局「令和2年度下水道モニター」
※東京都在住20歳以上の男女個人
- ◆ 回答者数 481名
- ◆ 調査方法 ウェブ形式による自記式アンケート

I 結果の概要

II 回答者属性

III 集計結果

- 1 下水道の浸水対策について
 - ・ 浸水対策について
 - ・ 豪雨対策下水道緊急プランについて
- 2 家庭での浸水への対策について
 - ・ 浸水対策強化月間について
 - ・ 家庭での浸水対策について
- 3 東京アメッシュについて

I 結果の概要

1 下水道の浸水対策への取組について

・浸水対策について

- 認知度が高いのは「雨水調整池の整備」81%、「浸水予想区域図の公表」81%
認知度が低いのは「増補管やバイパス管の整備」45%、「枝線の増径」37%
- これらの対策が「有効である」の割合は全て78%以上

・豪雨対策下水道緊急プランについて

- プランの認知度は非常に低く10.2%（H29～H31年度平均10.1%）
- プランの概要版の理解度は73%で、過去2年と比較するとやや上昇
- プランの評価で「有効である」は82%で、過去2年と比較するとやや増加

2 家庭での浸水への対策について

・浸水対策強化月間について

- 強化月間の認知度は45%で、前年度より5ポイント増加
- 認知経路の中で「東京都下水道局のホームページ」の回答は年代による傾向は見られず大きな差はなかったが、「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答は70歳以上が63%、60歳代が55%と年代が上がるほど高くなる傾向
- 「イベントが開催されていることを知らない」は75%で、特に若い世代の認知が低く、周知方法の改善が必要

・家庭での浸水対策について

- 「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」が63%と最も高く前回調査から16ポイント増加した。次いで「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が39%、「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」が28%で、前回調査より増加した。
- 大雨による浸水に自宅は安全かを問う設問では、判断基準で「高台や高層階に居住」、「川から遠い」等の立地条件が多かった。「ハザードマップを見て」と答えた方は15%で前回から10ポイント増加した。

3 東京アメッシュについて

- 東京アメッシュ…「利用している」44%
- 利用媒体……………「パソコン版」29%、「スマートフォン版」43%、「両方」28%
- GPS機能の活用アイデアでは、「自宅に加え、職場や親類の家などを登録している」や「外出時の洗濯物や雨具の準備に活用している」などの回答があった。また「雨のお知らせ機能」や「今後の降雨予測が欲しい」との意見もあった。

II 回答者属性

第2回モニターアンケートは、令和2年7月20日（月）から8月2日（日）までの14日間で実施した。その結果、481名の方から回答があった。（回答率67.7%）

■ 回答者数（性別、年代別、職業別、地区別）

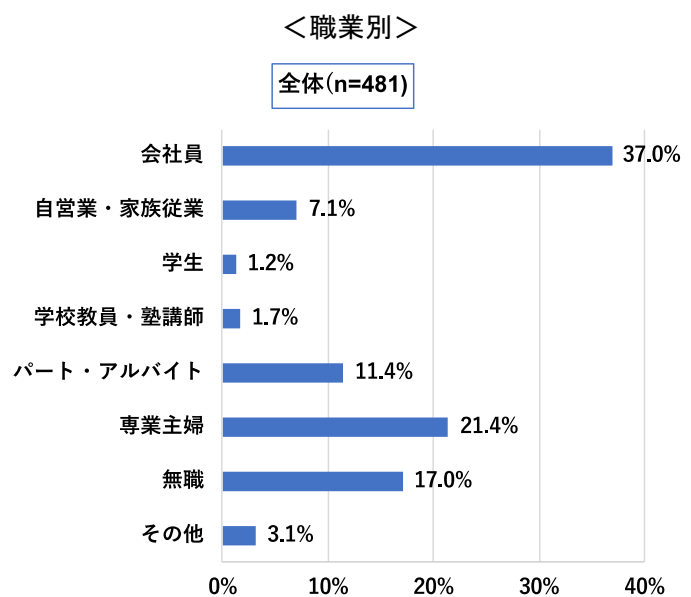
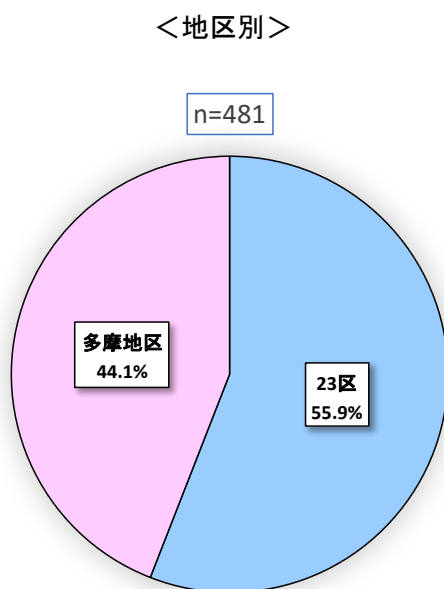
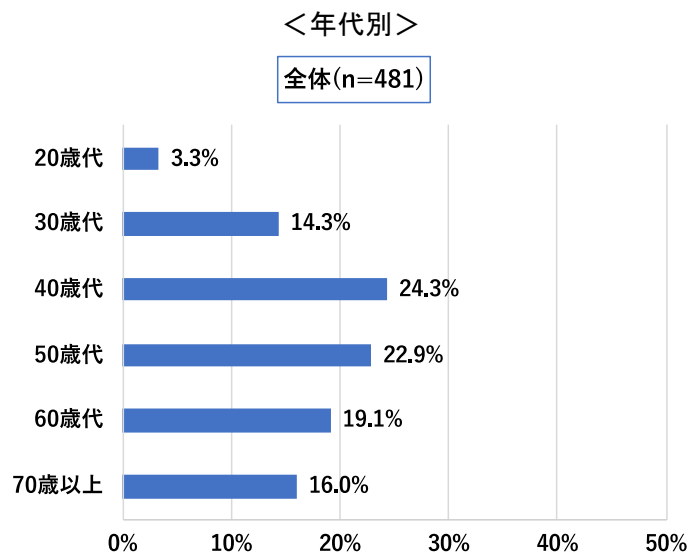
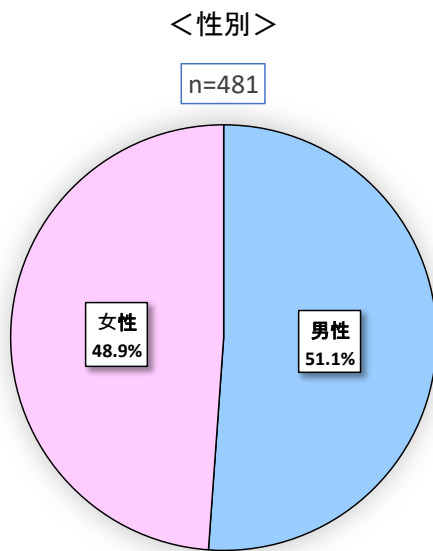
性別	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
男性	246	348	70.7%	51.1%
女性	235	362	64.9%	48.9%
合計	481	710	67.7%	100%

年代	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
20歳代	16	40	40.0%	3.3%
30歳代	69	117	59.0%	14.3%
40歳代	117	179	65.4%	24.3%
50歳代	110	148	74.3%	22.9%
60歳代	92	131	70.2%	19.1%
70歳以上	77	95	81.1%	16.0%
合計	481	710	67.7%	100%

地域	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
23区	269	372	72.3%	55.9%
多摩地区	212	338	62.7%	44.1%
合計	481	710	67.7%	100%

職業	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
会社員	178	283	62.9%	37.0%
自営業・家族従業	34	51	66.7%	7.1%
学生	6	10	60.0%	1.2%
学校教員・塾講師	8	9	88.9%	1.7%
パート・アルバイト	55	88	62.5%	11.4%
専業主婦	103	144	71.5%	21.4%
無職	82	110	74.5%	17.0%
その他	15	15	100%	3.1%
合計	481	710	67.7%	100.0%

■ 回答者属性別グラフ



※集計上・表記上への注意事項

- ① 本文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（%）は全て「n」を基数として算出している。また、比率を小数点第二位で四捨五入し「0.0%」となる項目については、グラフ上の表記を省略する。
- ② 本文中の性別、年代、地域、子供と同居有無別分析において、性別、年代、地域、子供と同居それぞれにおける「無回答」「不明」は省略する。

3. 集計結果

※ 文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（%）はすべて「n」を基数（100%）として算出している。

3.1 下水道の浸水対策について

3.1.1 下水道の浸水対策についての認知度

- ◆ 下水道の浸水対策への認知度について、「内容や意味を十分に知っている」、「内容や意味を少し知っている」と「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』では、「9）浸水予想区域図の公表」が80.9%と最も高く、次いで「3）雨水調整池の整備」が80.7%、「5）大規模地下街対策」が71.5%となった。一方、「4）暫定貯留管の整備」、「7）増補管やバイパス管の整備」はそれぞれ49.3%、44.7%と低く、特に、「6）枝線の増径」は36.8%と最も低かった。
- ◆ 『認知度あり』を男女別にみると、全体的に、男性の認知度が高い傾向となっており、男女間の差は「2）ポンプ所の能力増強」で19.8ポイント、「4）暫定貯留管の整備」で17.2ポイント、「1）浸水対策幹線の整備」と「6）枝線の増径」で15.3ポイントという順となった。
- ◆ 『認知度あり』を年代別にみると、どの対策も30歳代が最も低く、年代の上昇とともに認知度が上がる傾向が見られた。また、対策ごとにみると、「9）浸水予想区域図の公表」は多くの世代で認知度が高く、特に70歳以上が90.9%と最も高く、次いで60歳代が84.8%、50歳代が84.5%となり、20代でも81.2%と高い結果となった。
- ◆ 『認知度あり』を地区別にみると、「8）雨水浸透ますの設置」以外は全て23区部の方が多摩地区に比べ高い結果となり、特に「1）浸水対策幹線の整備」、「2）ポンプ所の能力増強」、「3）雨水調整池の整備」で、23区部が多摩地区よりそれぞれ12.9ポイント、12.7ポイント、11ポイント高い結果となった。
- ◆ 『認知度あり』を経年比較でみると、今年度の結果は平成31年度調査に比べ全て増加した。特に「2）ポンプ所の能力増強」は8.2ポイント、「7）増補管やバイパス管の整備」は6.4ポイント、「10）地下室・半地下室における注意喚起」は6ポイント認知度が増加する結果となった。

近年、都市化が進んだことによる雨水流入量の増加や頻発する局地的な大雨などによって、浸水被害が発生しています。東京都下水道局では、大雨から街を守るため、下水道管や貯留施設の整備など、下水道による浸水対策を進めています。

Q5 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組についておうかがいします。以下のそれぞれの取組について、あなたはこのことをご存知でしたか？各取組の右にある選択肢から一つだけお選び下さい。

- 1) 浸水対策幹線の整備
- 2) ポンプ所の能力増強
- 3) 雨水調整池の整備
- 4) 暫定貯留管の整備
- 5) 大規模地下街対策
- 6) 枝線の増径
- 7) 増補管やバイパス管の整備
- 8) 雨水浸透ますの設置
- 9) 浸水予想区域図の公表
- 10) 地下室・半地下室における注意喚起

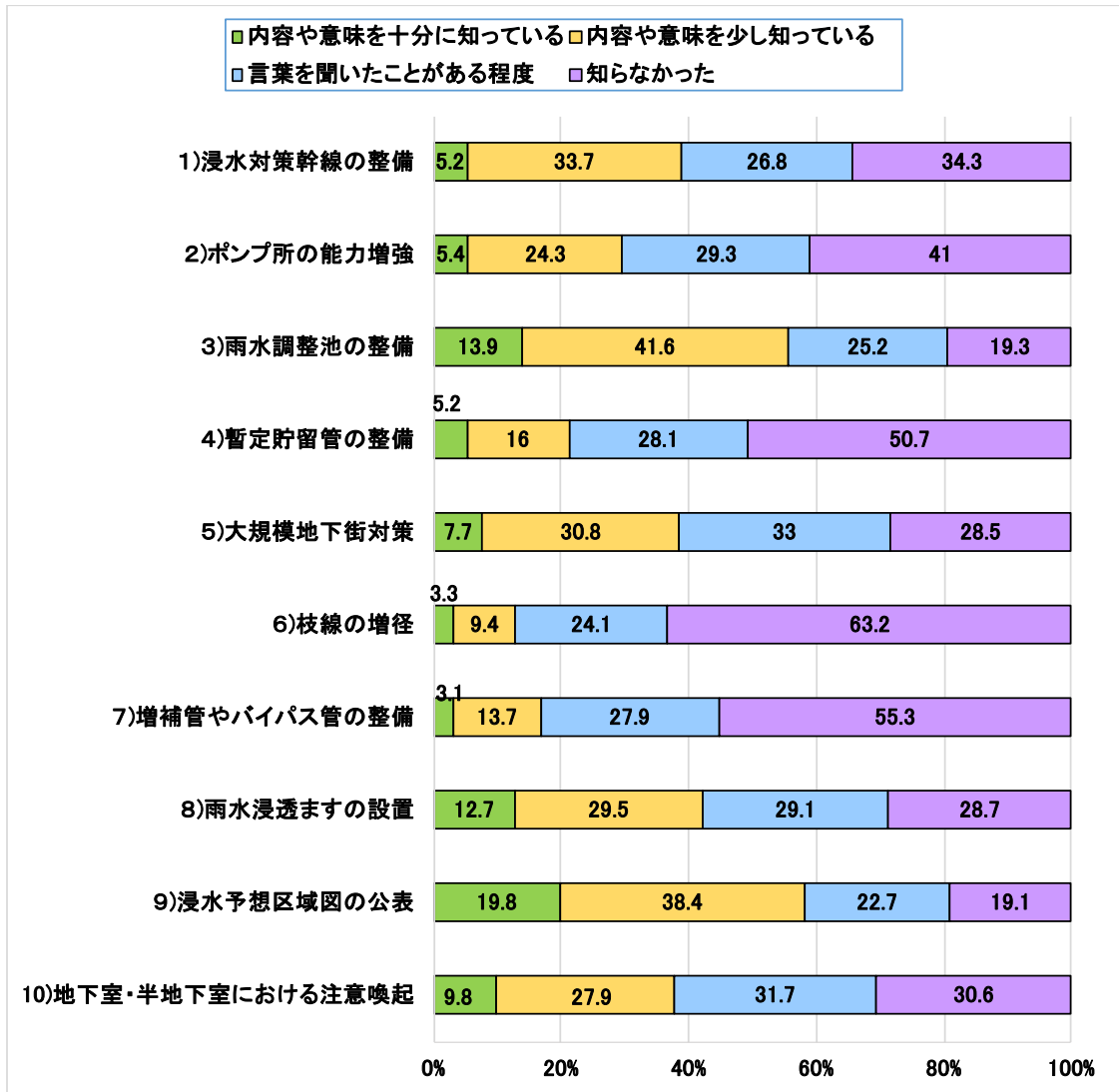
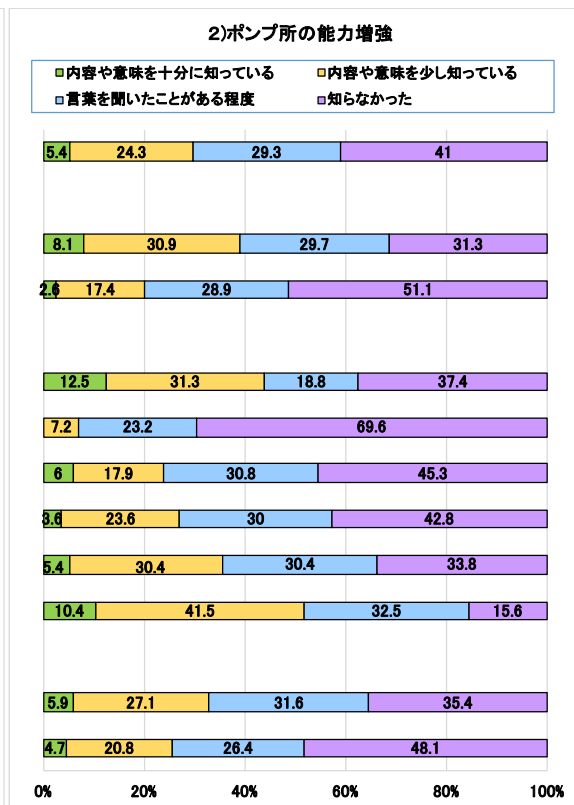
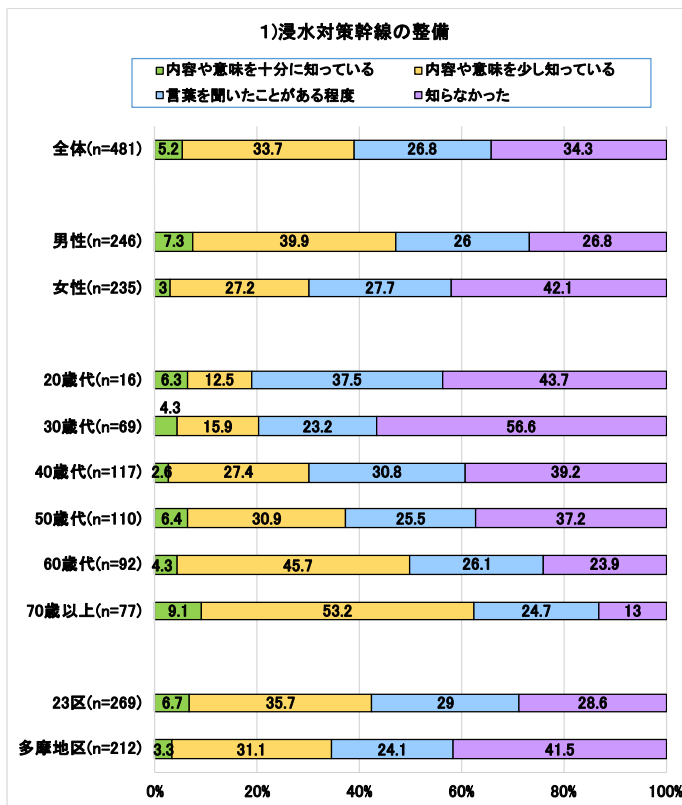
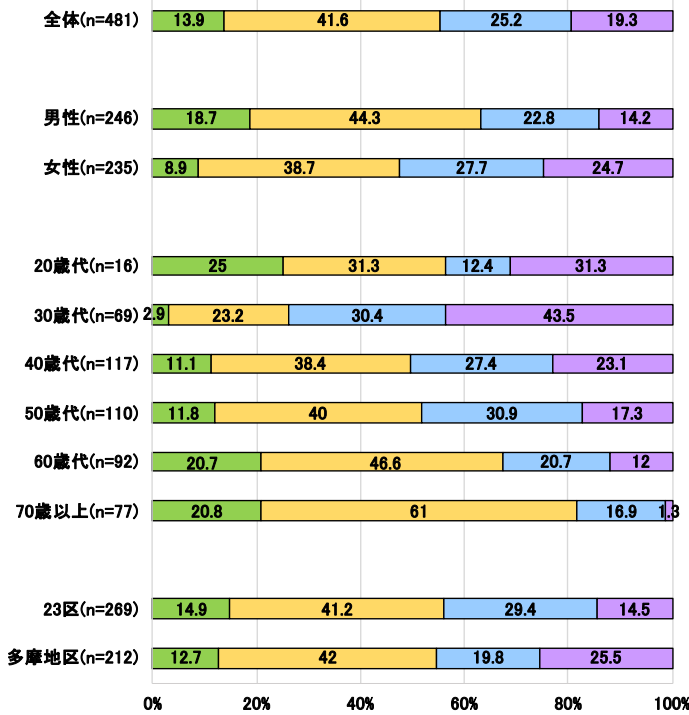


図 3 - 1 - 1 下水道の浸水対策についての認知度



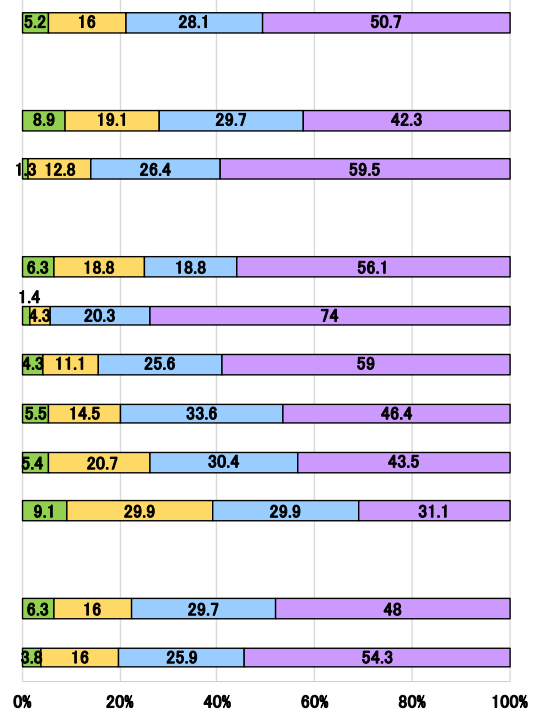
3) 雨水調整池の整備

内容や意味を十分に知っている 内容や意味を少し知っている
 言葉を聞いたことがある程度 知らなかった



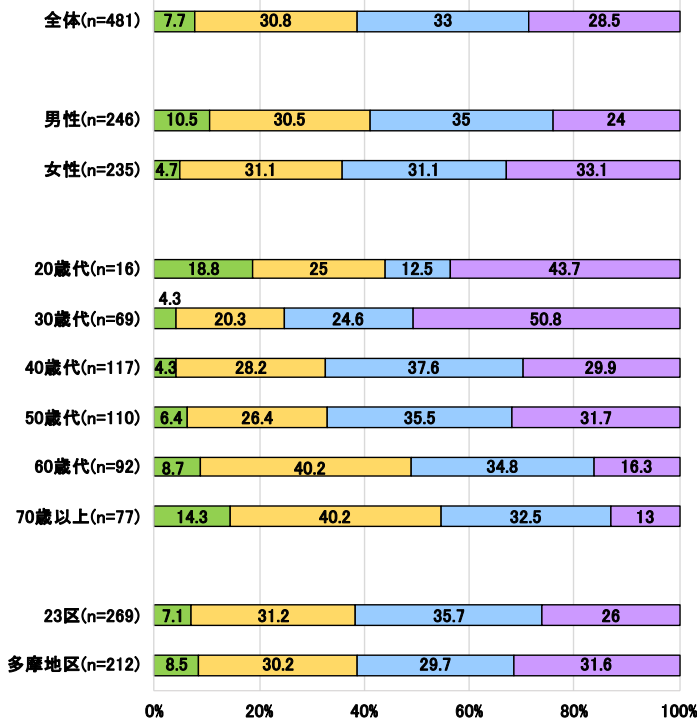
4) 暫定貯留管の整備

内容や意味を十分に知っている 内容や意味を少し知っている
 言葉を聞いたことがある程度 知らなかった



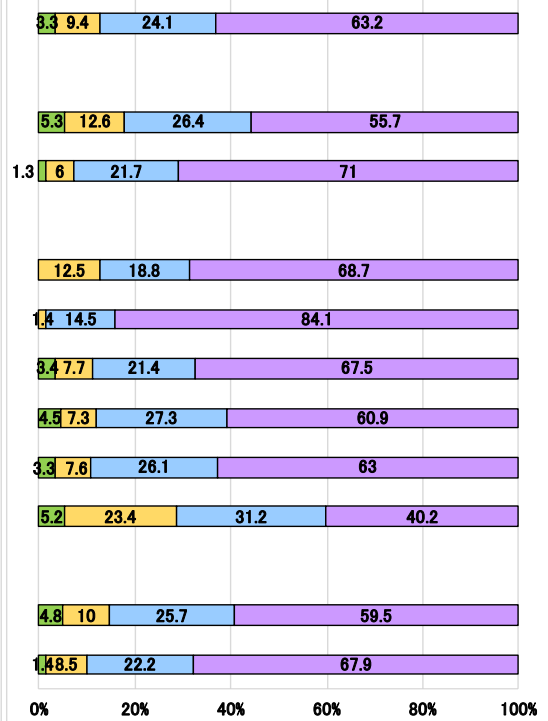
5) 大規模地下街対策

内容や意味を十分に知っている 内容や意味を少し知っている
 言葉を聞いたことがある程度 知らなかった



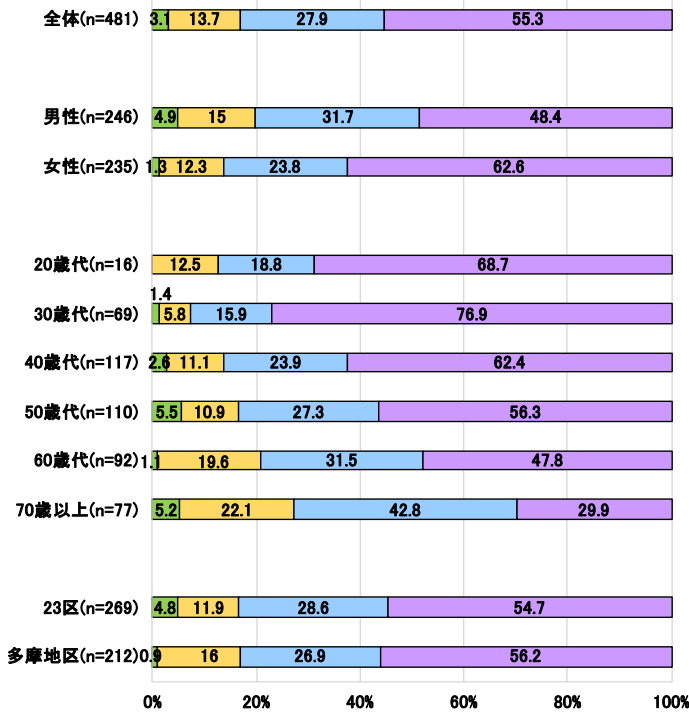
6) 枝線の増径

内容や意味を十分に知っている 内容や意味を少し知っている
 言葉を聞いたことがある程度 知らなかった



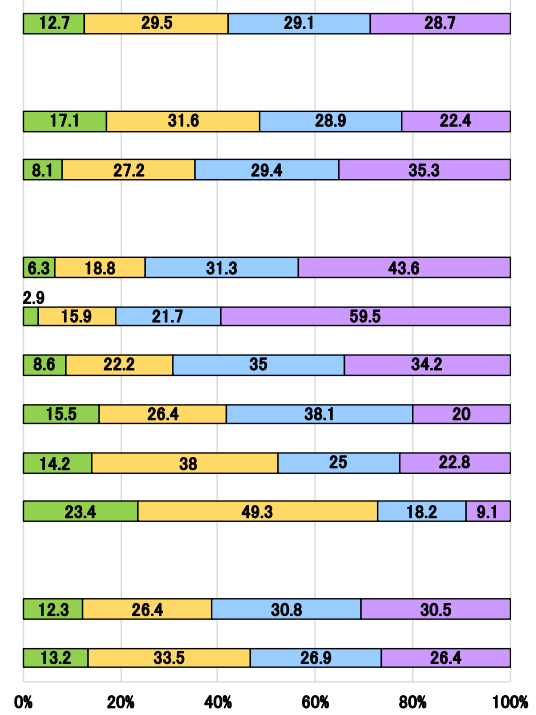
7)増補管やバイパス管の整備

内容や意味を十分に知っている 内容や意味を少し知っている
 言葉を聞いたことがある程度 知らなかった



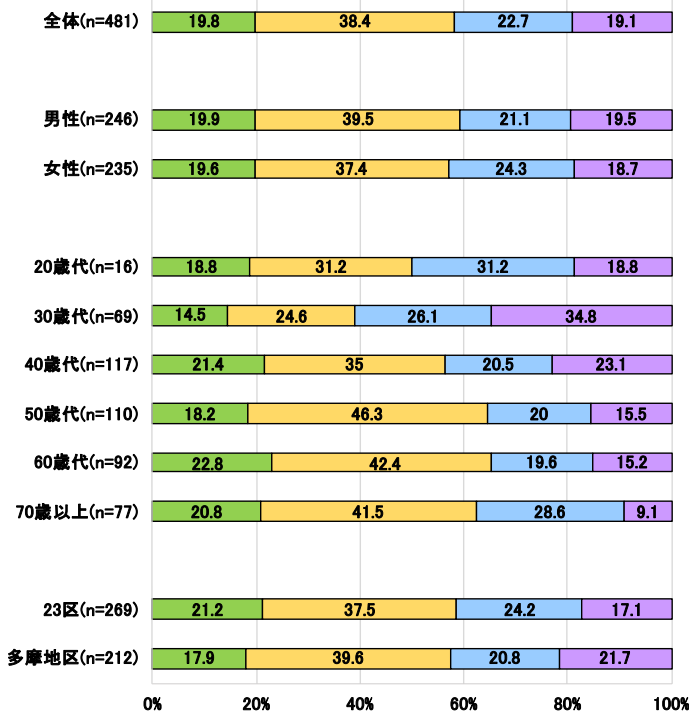
8)雨水浸透ますの設置

内容や意味を十分に知っている 内容や意味を少し知っている
 言葉を聞いたことがある程度 知らなかった



9)浸水予想区域図の公表

内容や意味を十分に知っている 内容や意味を少し知っている
 言葉を聞いたことがある程度 知らなかった



10)地下室・半地下室における注意喚起

内容や意味を十分に知っている 内容や意味を少し知っている
 言葉を聞いたことがある程度 知らなかった

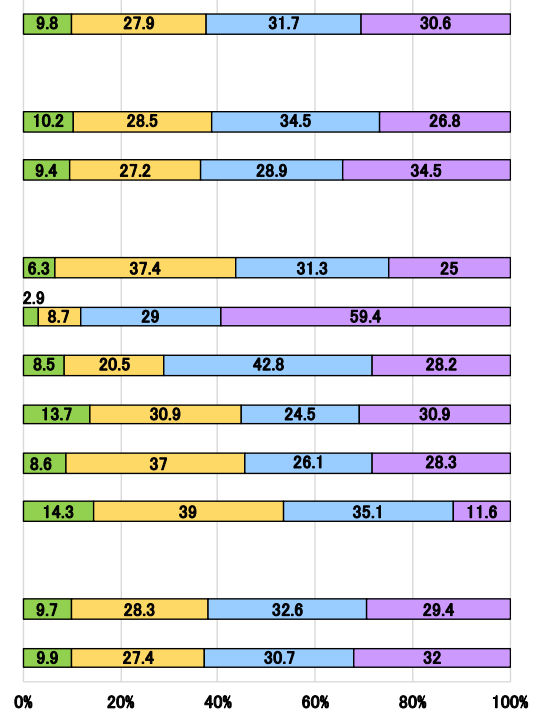
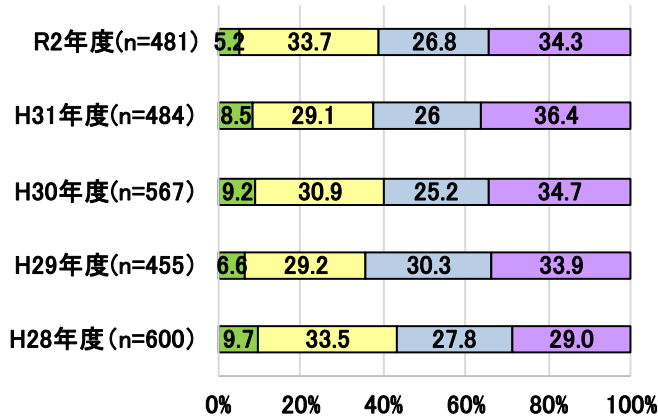


図3-1-1-1 下水道の浸水対策についての認知度（性別・年代別・地区別）

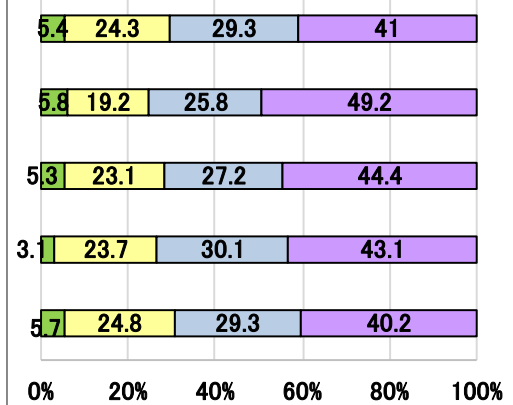
(1) 浸水対策幹線の整備

- 内容や意味を十分に知っている
- 内容や意味を少し知っている
- 言葉を聞いたことがある程度
- 知らなかった



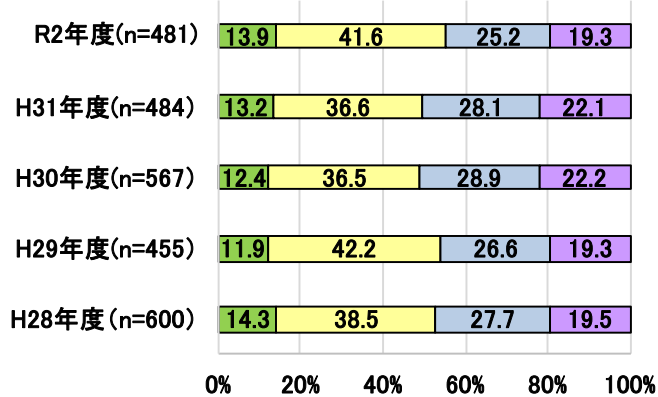
(2) ポンプ所の能力増強

- 内容や意味を十分に知っている
- 内容や意味を少し知っている
- 言葉を聞いたことがある程度
- 知らなかった



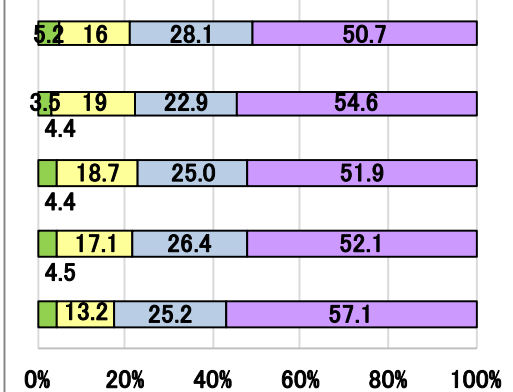
(3) 雨水調整池の整備

- 内容や意味を十分に知っている
- 内容や意味を少し知っている
- 言葉を聞いたことがある程度
- 知らなかった



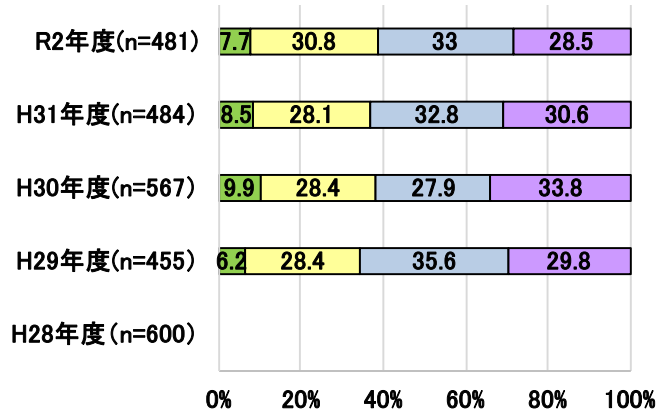
(4) 暫定貯留管の整備

- 内容や意味を十分に知っている
- 内容や意味を少し知っている
- 言葉を聞いたことがある程度
- 知らなかった



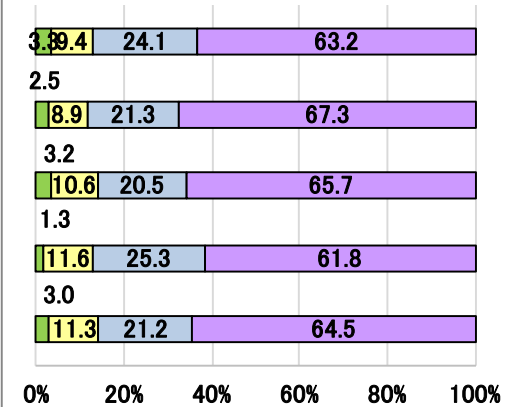
(5) 大規模地下街対策

- 内容や意味を十分に知っている
- 内容や意味を少し知っている
- 言葉を聞いたことがある程度
- 知らなかった



(6) 枝線の増径

- 内容や意味を十分に知っている
- 内容や意味を少し知っている
- 言葉を聞いたことがある程度
- 知らなかった



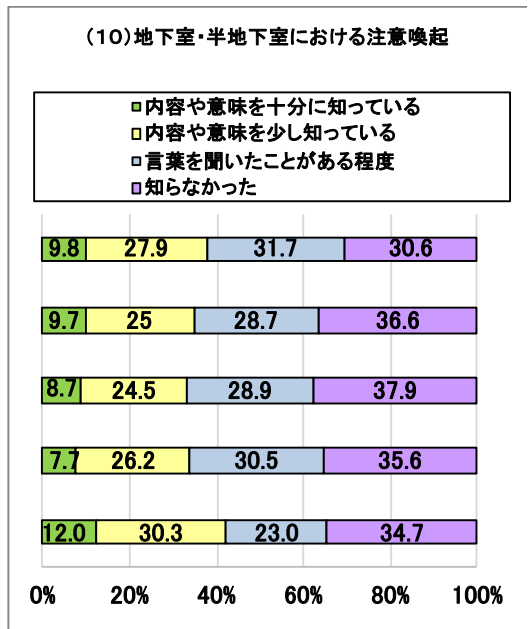
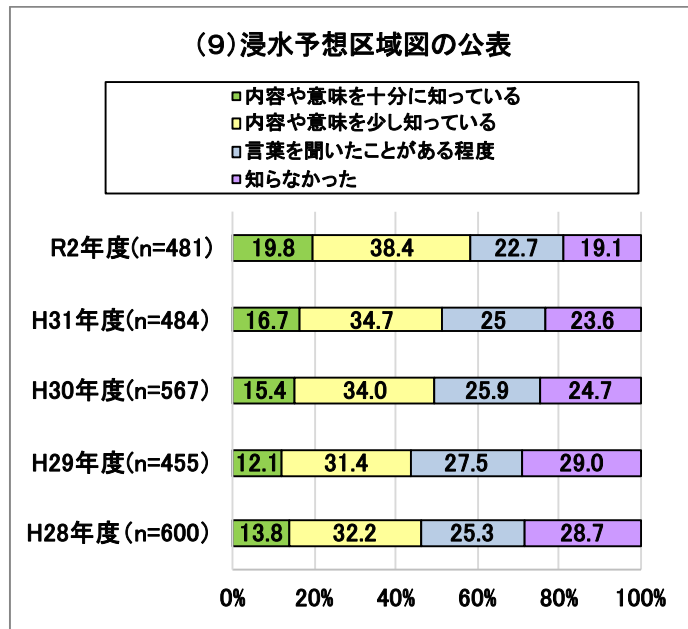
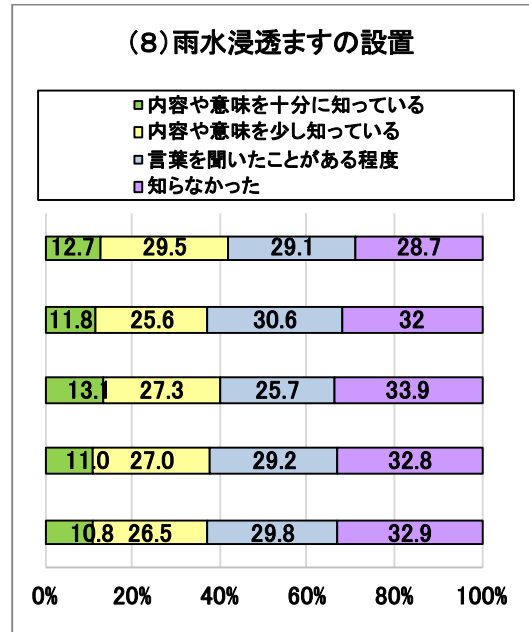
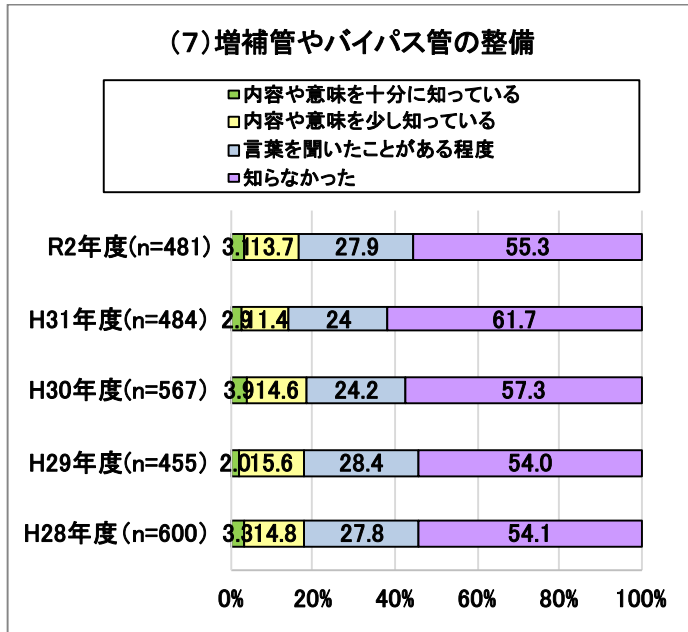


図3-1-1-2 下水道の浸水対策についての認知度（経年比較）

3.1.2 下水道の浸水対策への取組についての認識度

- ◆ 下水道の浸水対策への取組について、「良く理解できた」と「理解できた」を合わせた『理解できた』では、近年頻発する豪雨災害の対策として、メディア等で取り上げられる機会が多い「1)浸水対策幹線の整備」、「2)ポンプ所の能力増強」、「3)雨水調整池の整備」、「9)浸水予想区域図の公表」といった取組は、30年度と同様に85%以上と認識度が高く、高く、最も低い「4)暫定貯留管の整備」でも79.3%と全体的に高い傾向となり、浸水対策についてよくご理解いただけたことが分かった。
- ◆ 『理解できた』を男女別にみると、全体的に、女性に比べ男性の認識度が高い傾向がみられた。中でも、「4)暫定貯留管の整備」は差が3.5ポイントと最も大きかった。一方で、「7)増補管やバイパス管の整備」は女性の方が男性より4.1ポイント認識度が高い結果となった。
- ◆ 『理解できた』を年代別にみると、50歳代が各取組で8割を超える高い認識度を示した。中でも、「1)浸水対策幹線の整備」は89.1%、「7)増補管やバイパス管の整備」は88.1%と85%を超える高い結果となった。一方、他の年代をみると、20歳代では「2)ポンプ所の能力増強」、「7)増補管やバイパス管の整備」が87.4%と最も高く、30歳代では「9)浸水予想区域図」が84.1%、40歳代では「1)浸水対策幹線の整備」が87.2%、60歳代では「3)雨水調整池の整備」が90.3%、70歳以上では「1)浸水対策幹線の整備」が92.2%で最も高い結果となり、世代により違いが見られた。
- ◆ 『理解できた』を地区別にみると、「9)浸水予想区域図」は多摩地区が23区部より3.1ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると『理解できた』は、本年度と平成31年度を比べると取組ごとにバラつきがみられた。差が大きいものでは、「5)大規模地下街対策」、「4)暫定貯留管の整備」で、平成31年度に比べ本年度はそれぞれ3.2ポイント、1.9ポイント低くなる結果となった。

Q6 浸水対策のイメージと具体策をご覧いただき、以下に示す各取組について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びください。

- 1) 浸水対策幹線の整備
- 2) ポンプ所の能力増強
- 3) 雨水調整池の整備
- 4) 暫定貯留管の整備
- 5) 大規模地下街対策
- 6) 枝線の増径
- 7) 増補管やバイパス管の整備
- 8) 雨水浸透ますの設置
- 9) 浸水予想区域図の公表
- 10) 地下室・半地下室における注意喚起

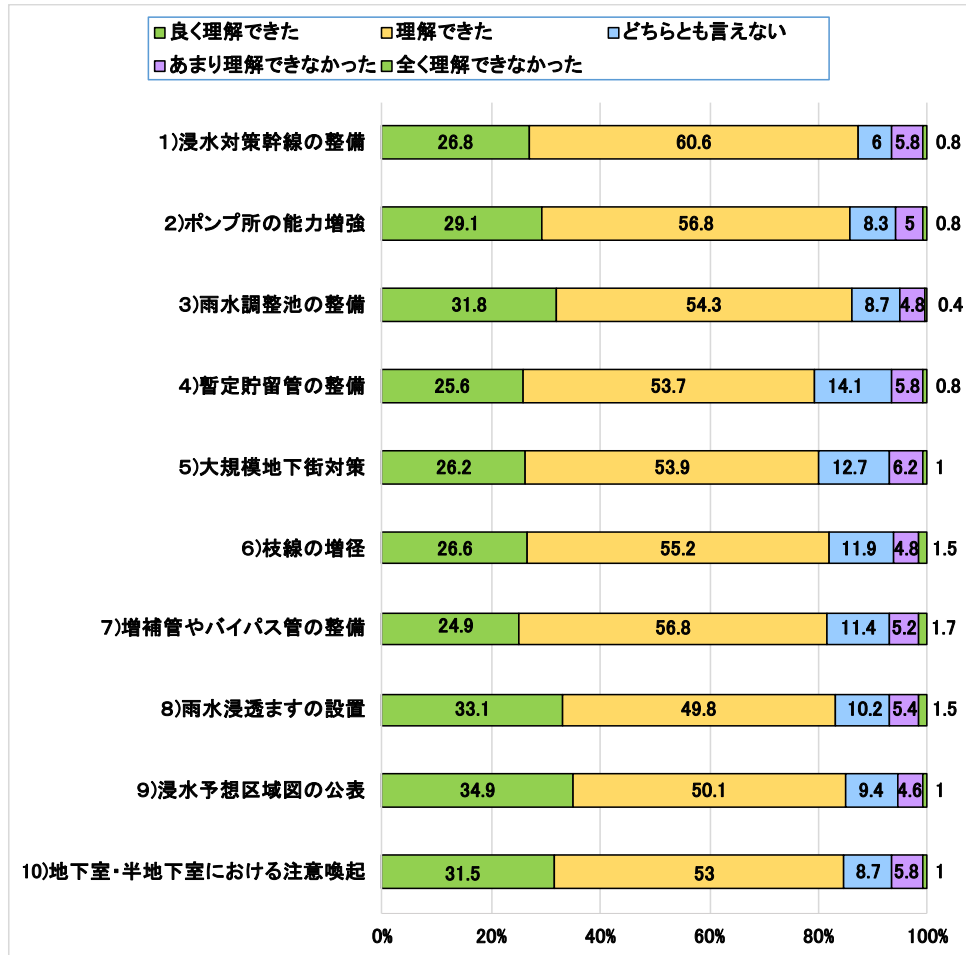
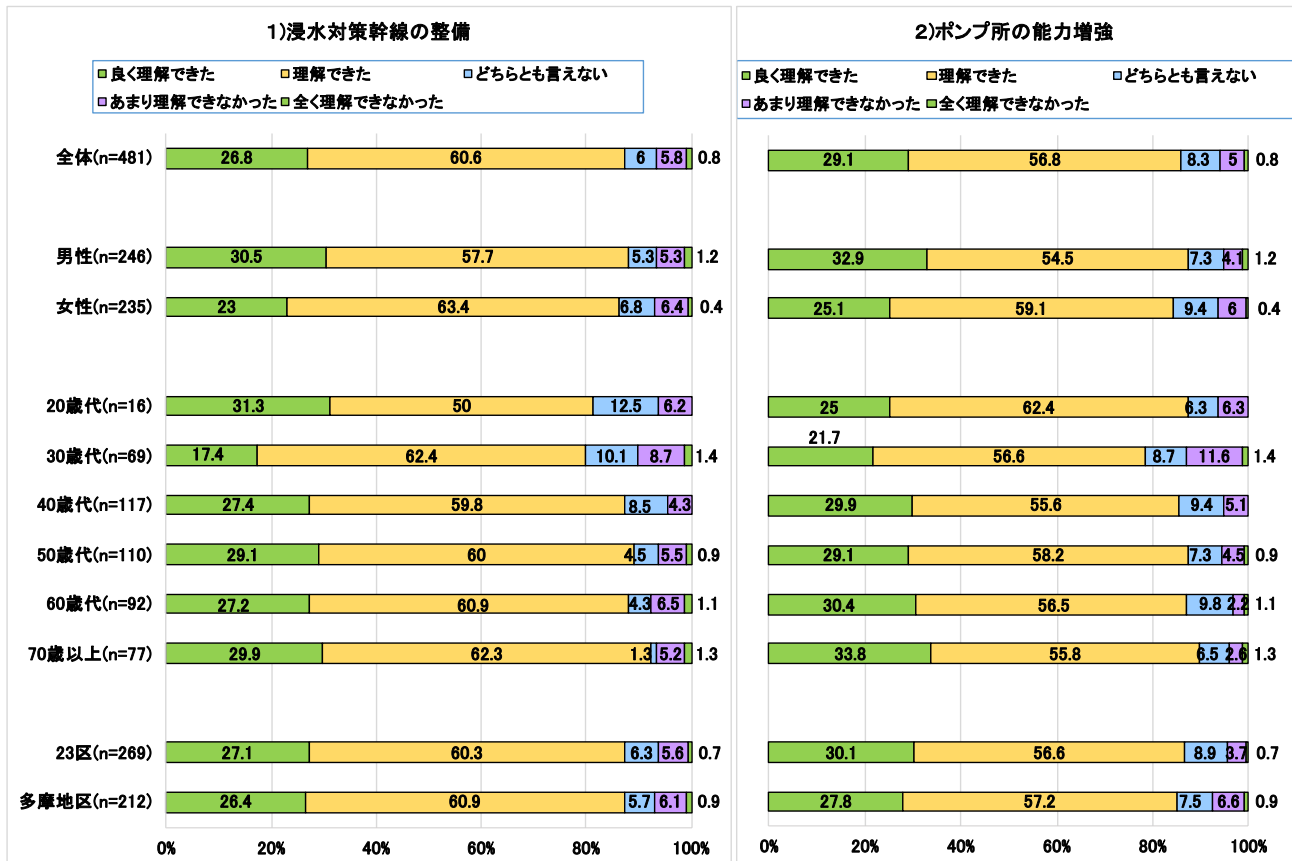
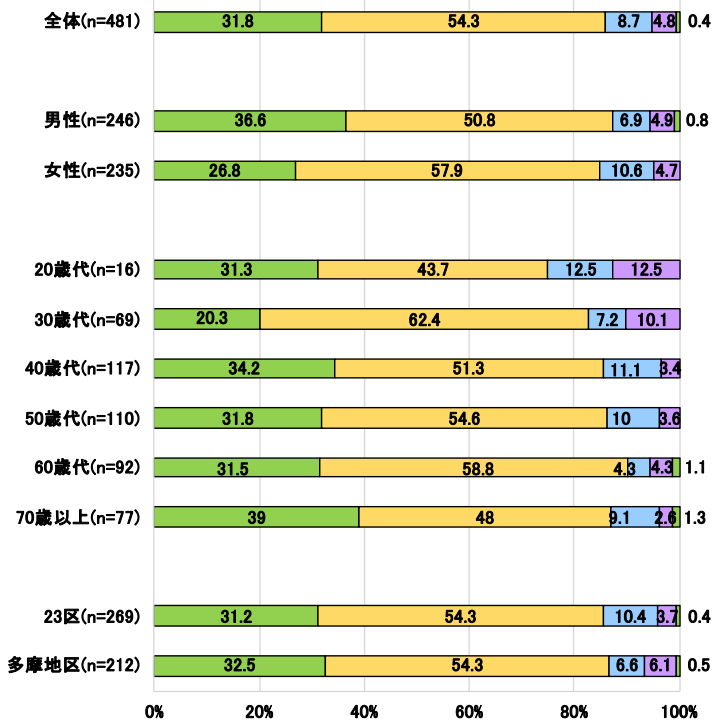


図 3-1-2 下水道の浸水対策への取組についての認識度



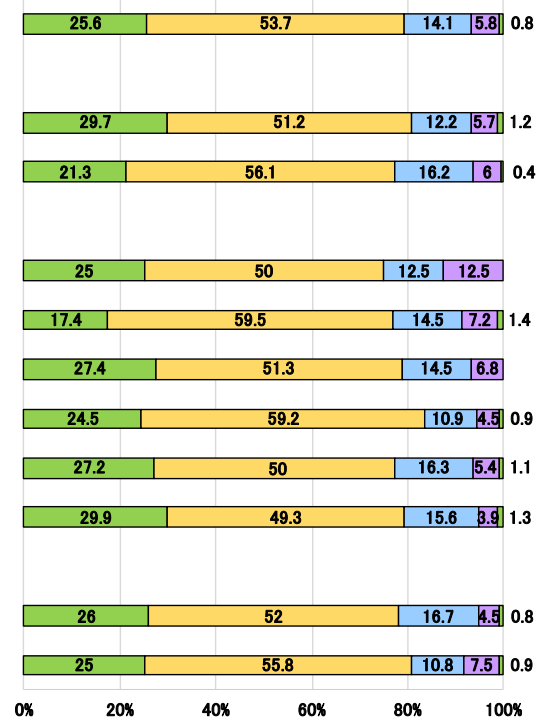
3) 雨水調整池の整備

■ 良く理解できた ■ 理解できた ■ どちらとも言えない
■ あまり理解できなかった ■ 全く理解できなかった



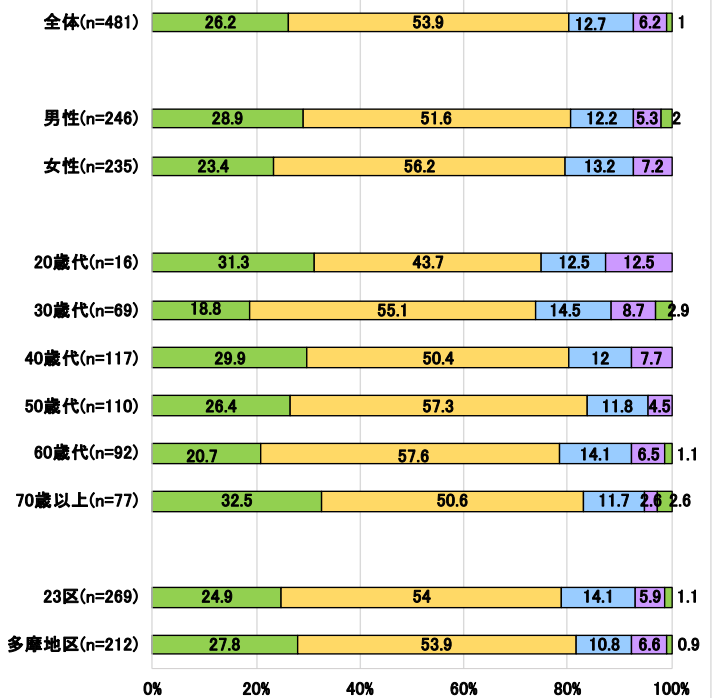
4) 暫定貯留管の整備

■ 良く理解できた ■ 理解できた ■ どちらとも言えない
■ あまり理解できなかった ■ 全く理解できなかった



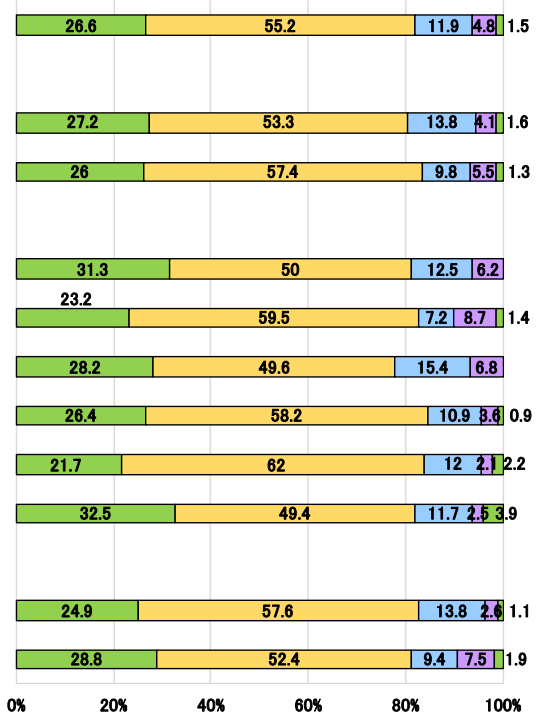
5) 大規模地下街対策

■ 良く理解できた ■ 理解できた ■ どちらとも言えない
■ あまり理解できなかった ■ 全く理解できなかった



6) 枝線の増径

■ 良く理解できた ■ 理解できた ■ どちらとも言えない
■ あまり理解できなかった ■ 全く理解できなかった



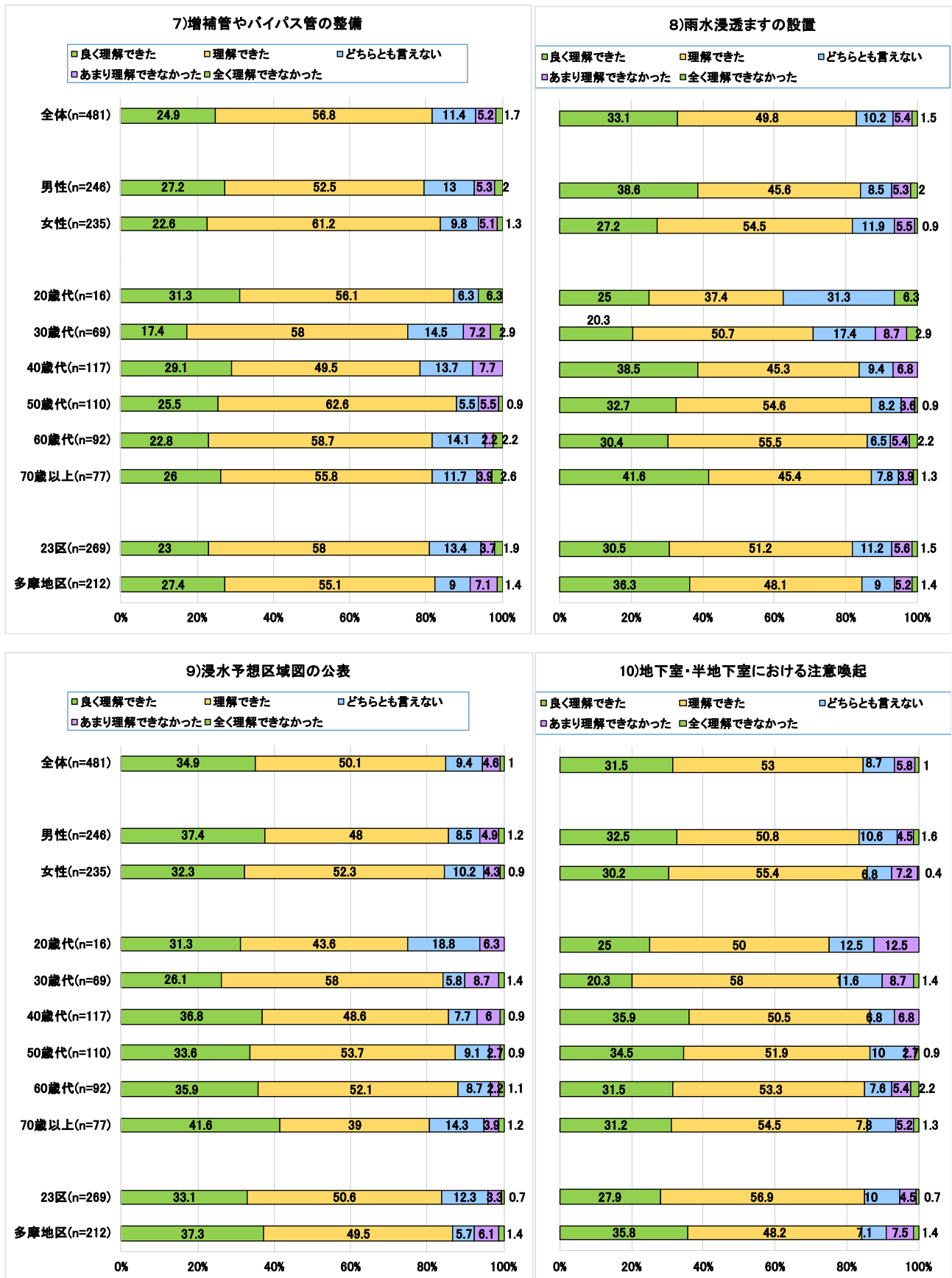
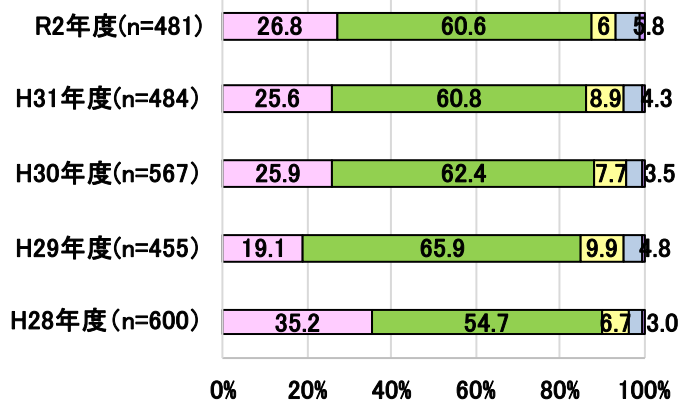
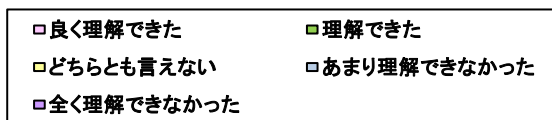
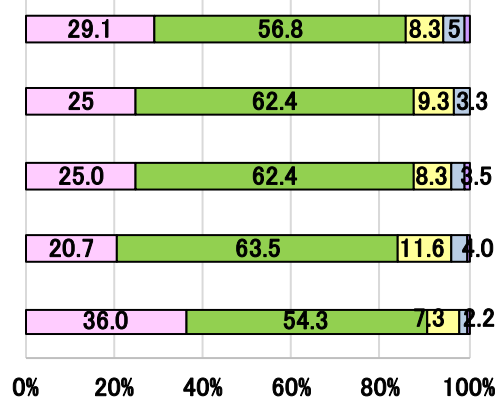
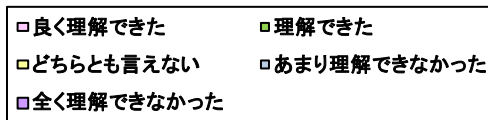


図3-1-2-1 下水道の浸水対策への取組についての認識度（性別・年代別・地区別）

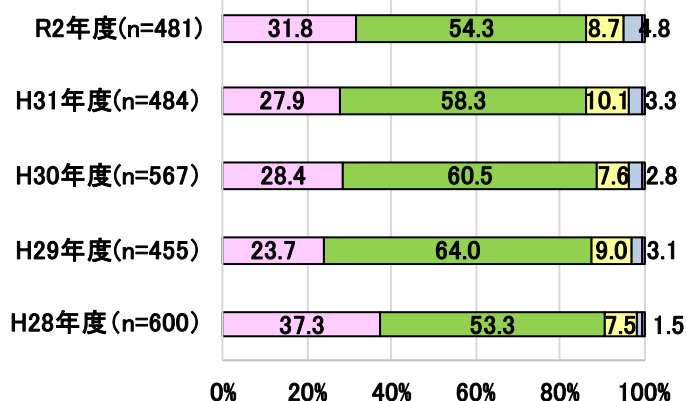
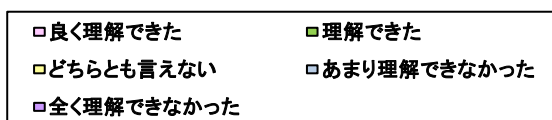
(1) 浸水対策幹線の整備



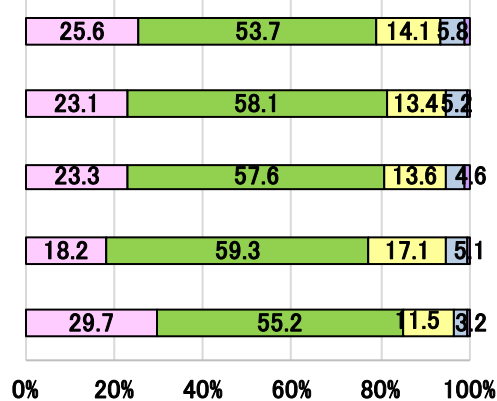
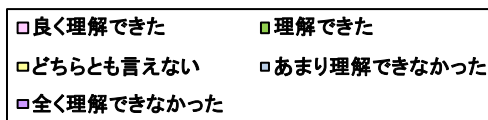
(2) ポンプ所の能力増強



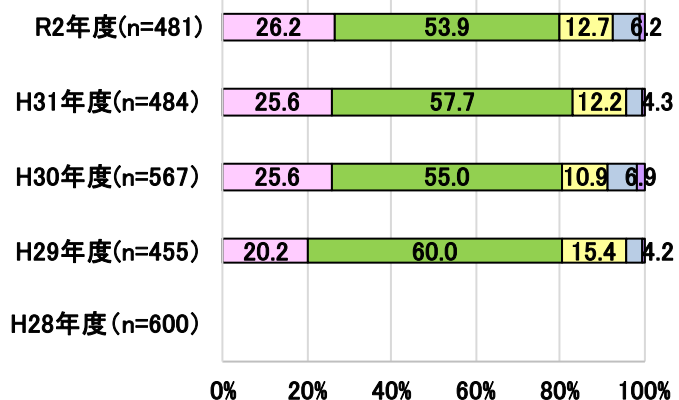
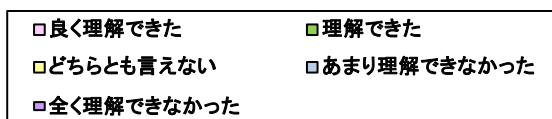
(3) 雨水調整池の整備



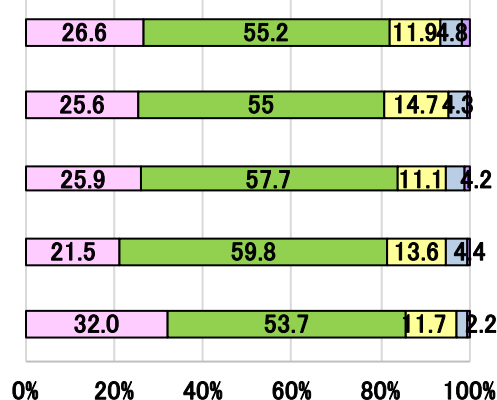
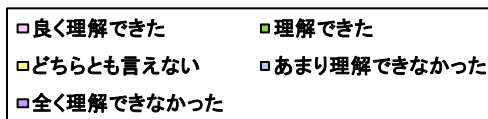
(4) 暫定貯留管の整備



(5) 大規模地下街対策



(6) 枝線の増径



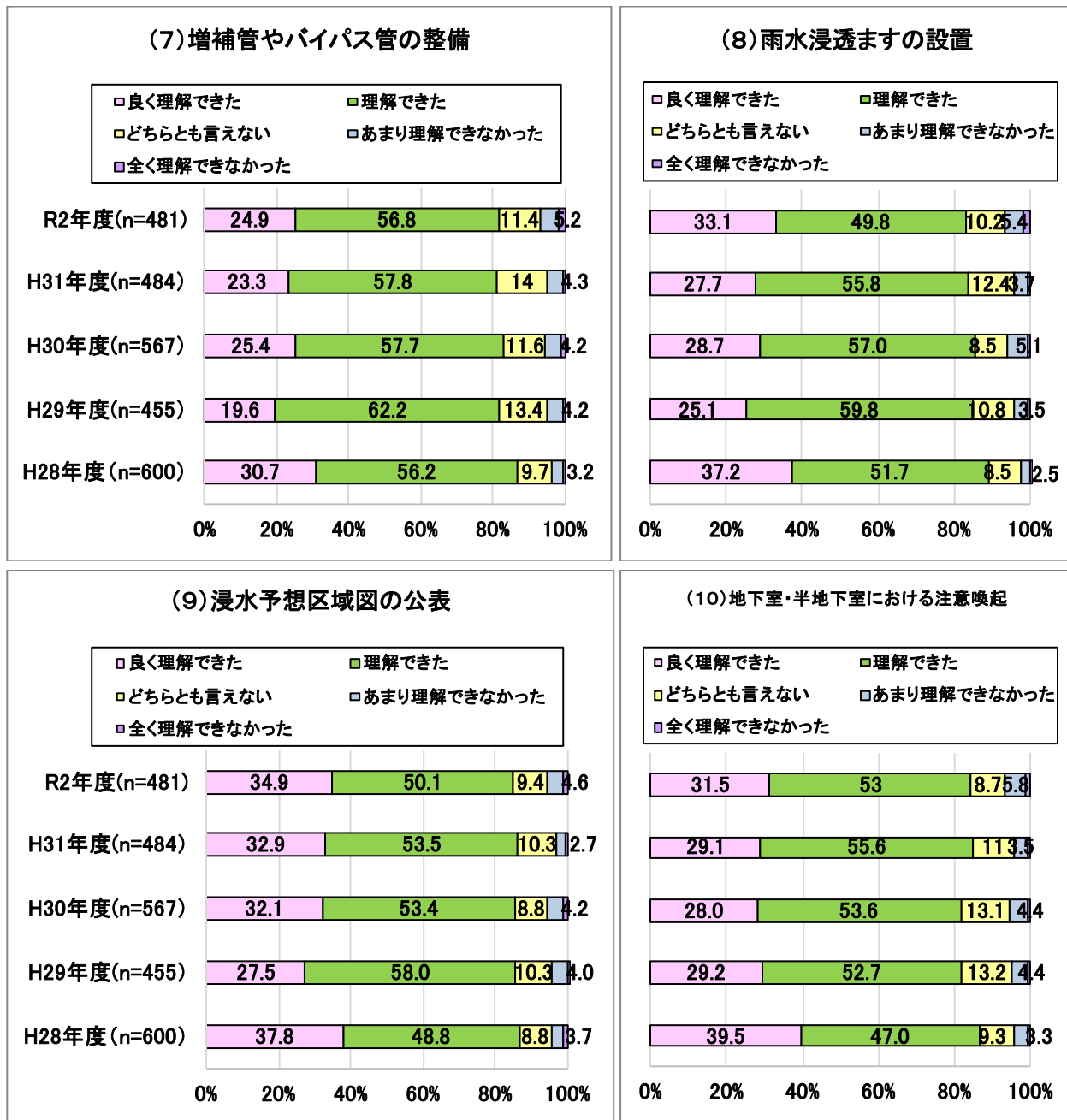


図3-1-2-2 下水道の浸水対策への取組についての認識度（経年比較）

3.1.3 下水道の浸水対策への取組についての評価

- ◆ 下水道の浸水対策への取組について、「とても有効である」と「有効である」を合わせた『有効である』では、「1)浸水対策幹線の整備」が91.3%と最も高く、次いで「3)雨水調整池の整備」が91.2%、「2)ポンプ所の能力増強」が89%となった。
 - ◆ 『有効である』を男女別にみると、全体的に女性の評価が高い傾向にあり、特に「10)地下室・半地下室における注意喚起」では、男性に比べ、女性は9.8ポイント高い結果となった。一方、「1)浸水対策幹線の整備」では、男性の方が女性より2.9ポイント高い評価となった。
 - ◆ 『有効である』を年代別にみると、60歳代は「3)雨水調整池の整備」が96.7%、40歳代は「1)浸水対策幹線の整備」が91.4%と特に高い結果となった。一方、20歳代では「8)雨水浸透ますの設置」、「10)地下室・半地下室における注意喚起」での評価が70%を下回る低い結果となった。
 - ◆ 『有効である』を地区別にみると、「2)ポンプ所の能力増強」は23区部が多摩地区より3ポイント高い評価となった。「10)地下室・半地下室における注意喚起」、「4)暫定貯留管の整備」で、多摩地区が23区部よりそれぞれ2.5ポイント、2.1ポイント高い結果となった。
 - ◆ 『有効である』を経年比較でみると、「3)雨水調整池の整備」、「5)大規模地下街対策」、「6)枝線の増径」、「10)地下室・半地下室における注意喚起」で前年よりポイントが高かった。
-

Q7 上記Q6と同様に、以下に示す各取組について、浸水被害の軽減にどれほど有効であると思いますか。それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びください。

- 1) 浸水対策幹線の整備
- 2) ポンプ所の能力増強
- 3) 雨水調整池の整備
- 4) 暫定貯留管の整備
- 5) 大規模地下街対策
- 6) 枝線の増径
- 7) 増補管やバイパス管の整備
- 8) 雨水浸透ますの設置
- 9) 浸水予想区域図の公表
- 10) 地下室・半地下室における注意喚起

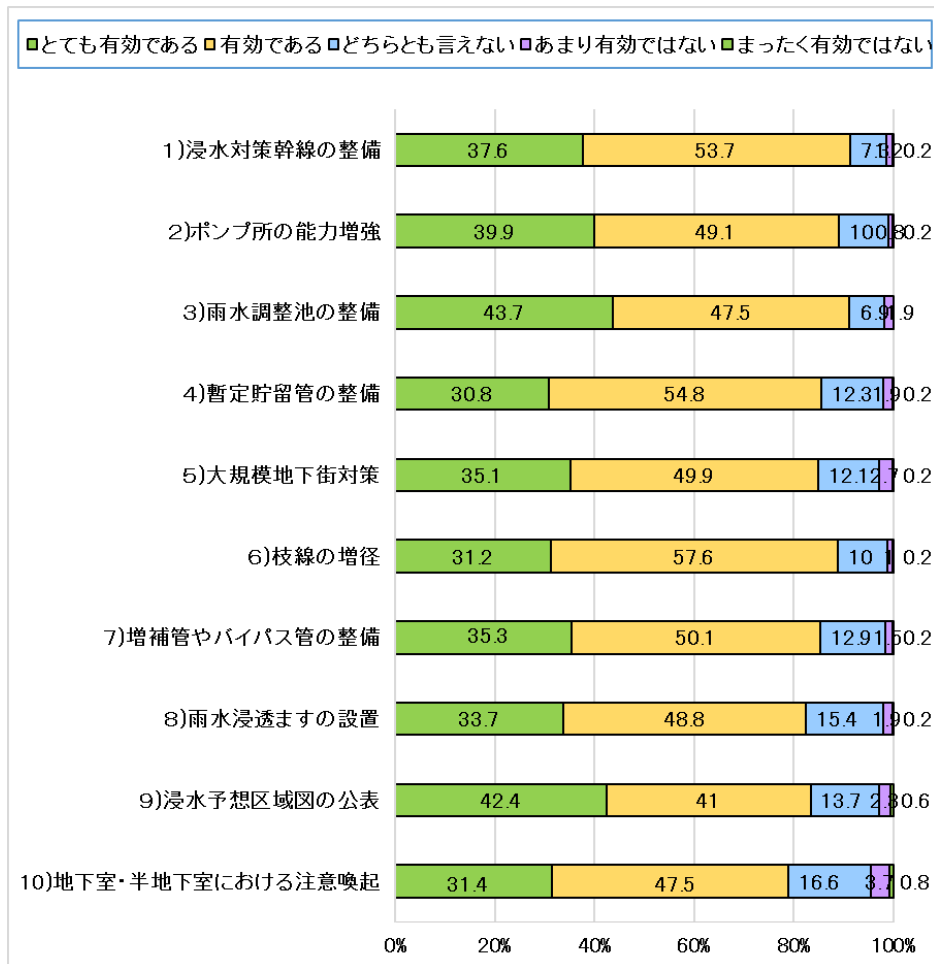
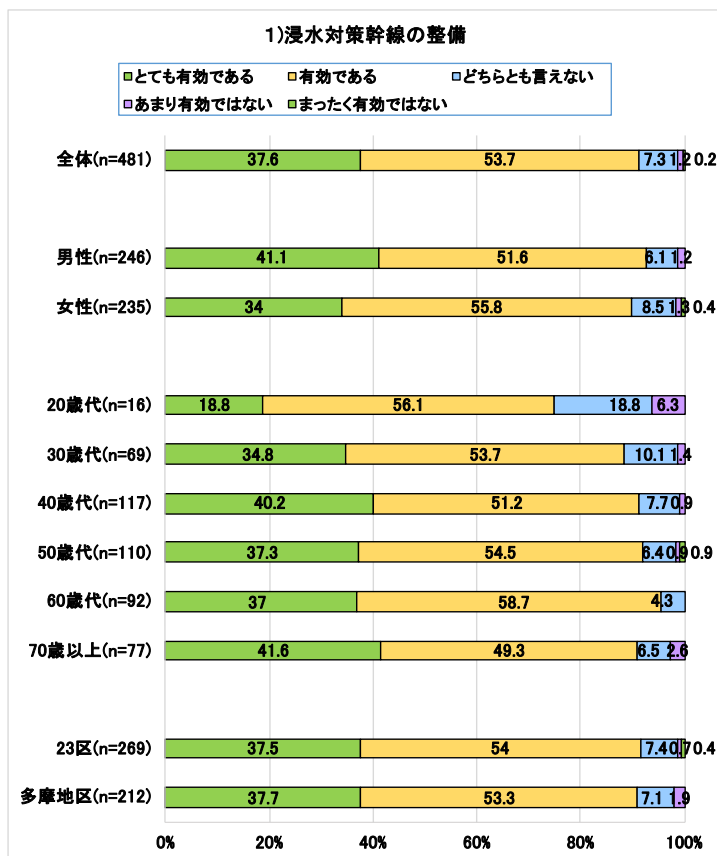
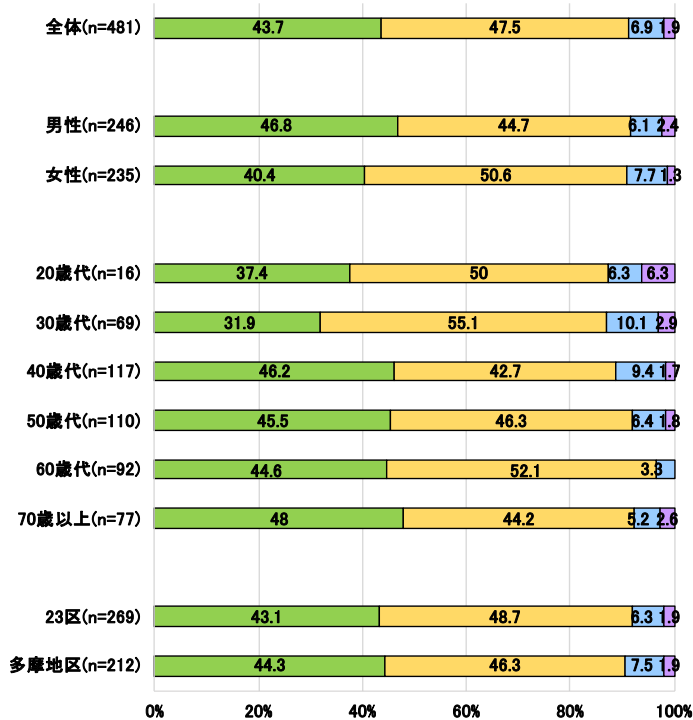


図 3-1-3 下水道の浸水対策への取組についての評価



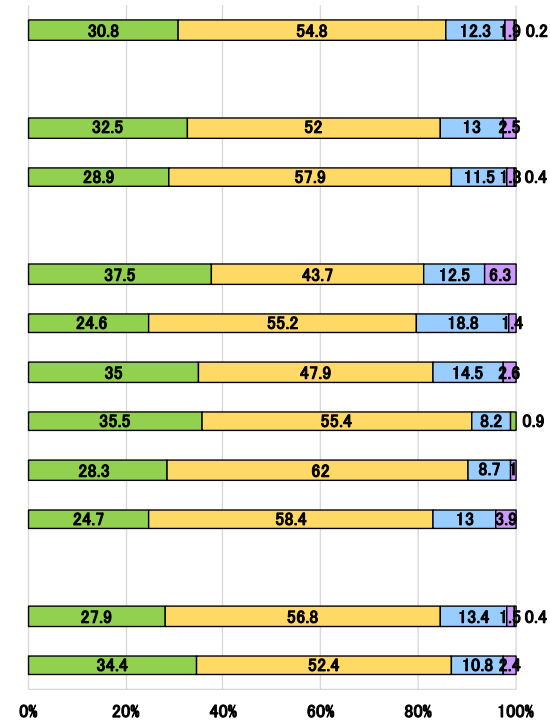
3)雨水調整池の整備

とても有効である 有効である どちらとも言えない
 あまり有効ではない まったく有効ではない



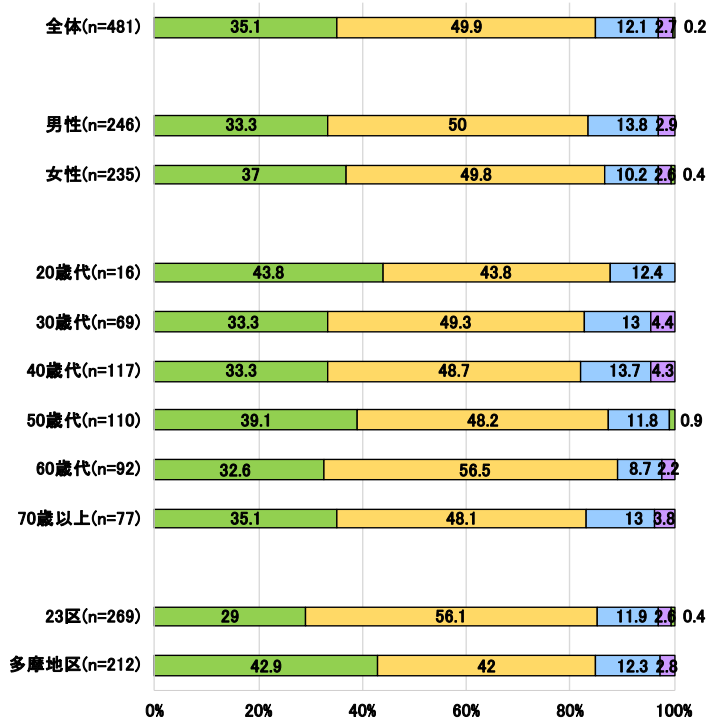
4)暫定貯留管の整備

とても有効である 有効である どちらとも言えない
 あまり有効ではない まったく有効ではない



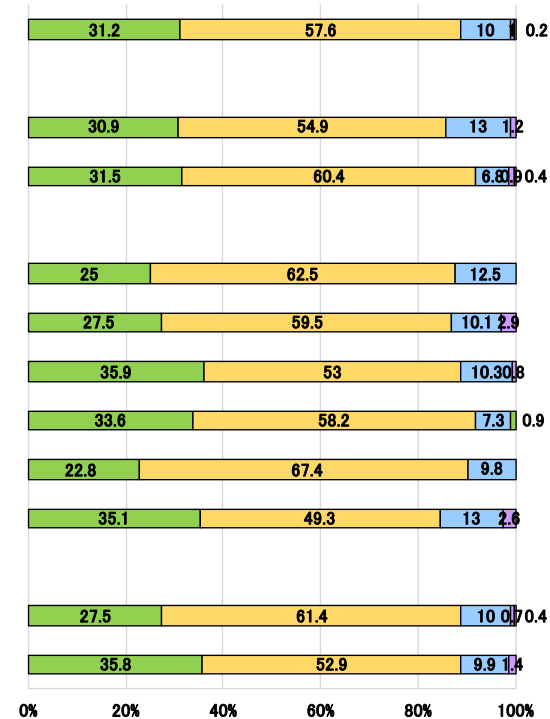
5)大規模地下街対策

とても有効である 有効である どちらとも言えない
 あまり有効ではない まったく有効ではない



6)枝線の増径

とても有効である 有効である どちらとも言えない
 あまり有効ではない まったく有効ではない



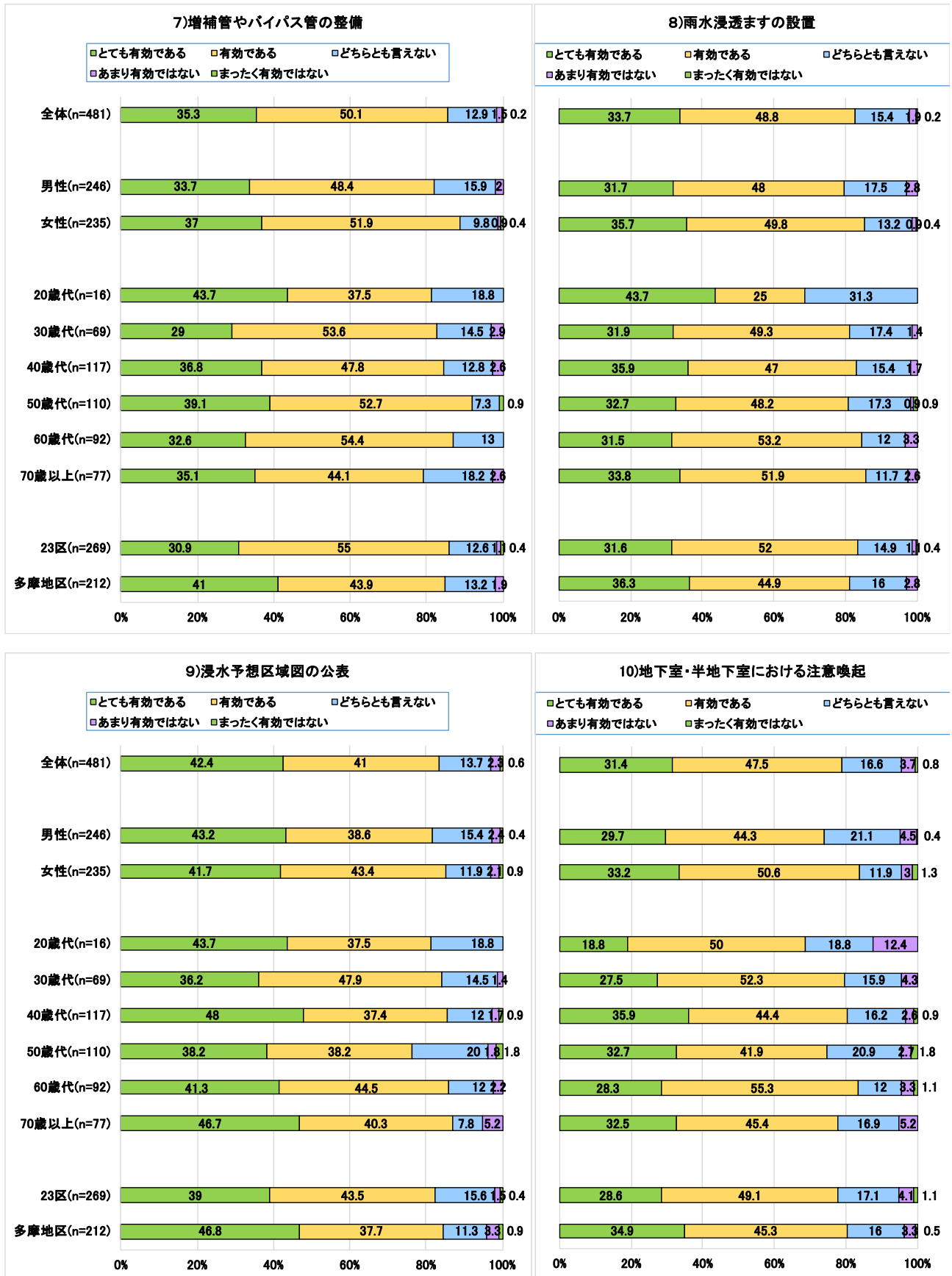
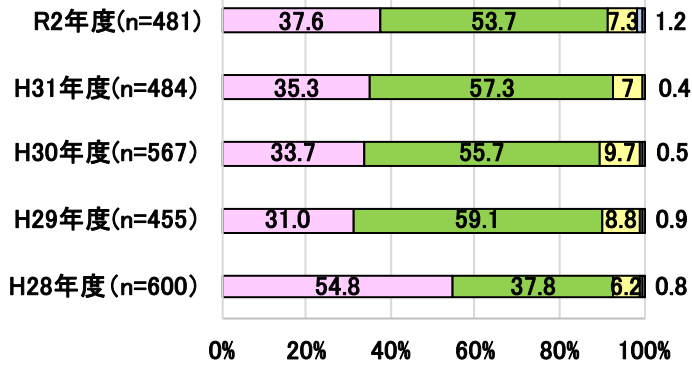
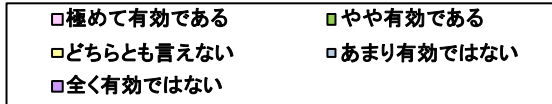
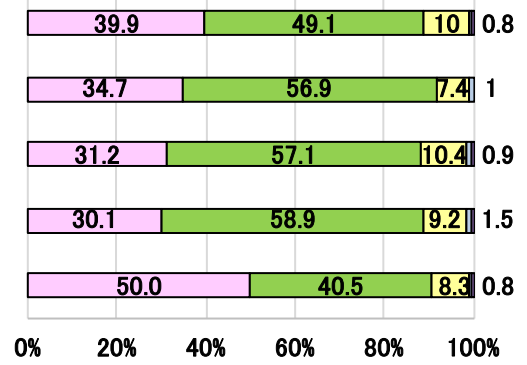
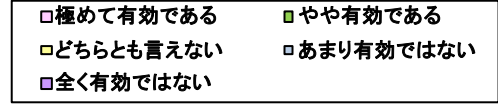


図3-1-3-1 下水道の浸水対策への取組についての評価（性別・年代別・地区別）

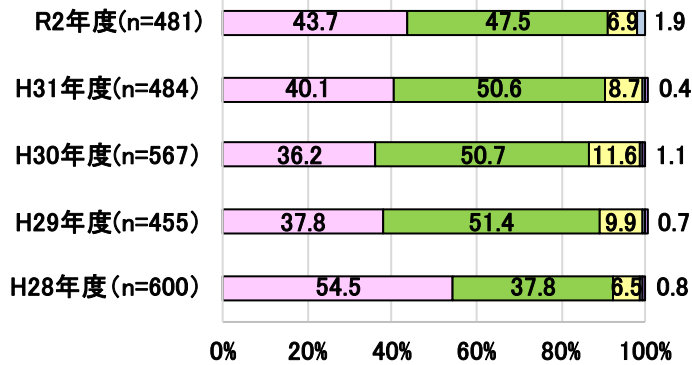
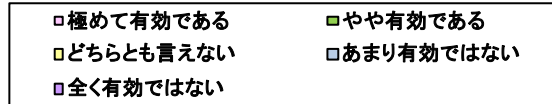
(1) 浸水対策幹線の整備



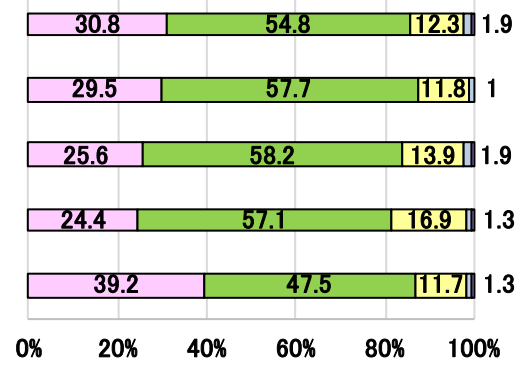
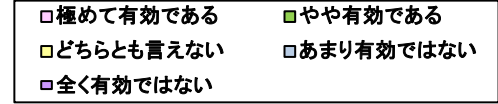
(2) ポンプ所の能力増強



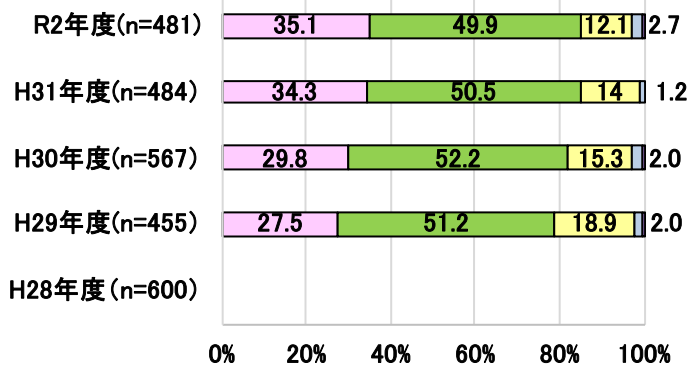
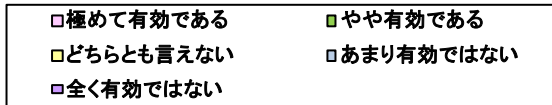
(3) 雨水調整池の整備



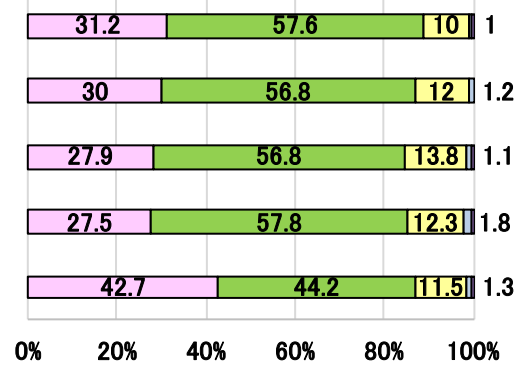
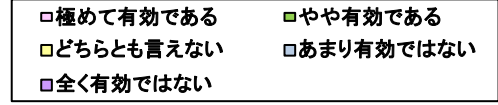
(4) 暫定貯留管の整備



(5) 大規模地下街対策



(6) 枝線の増径



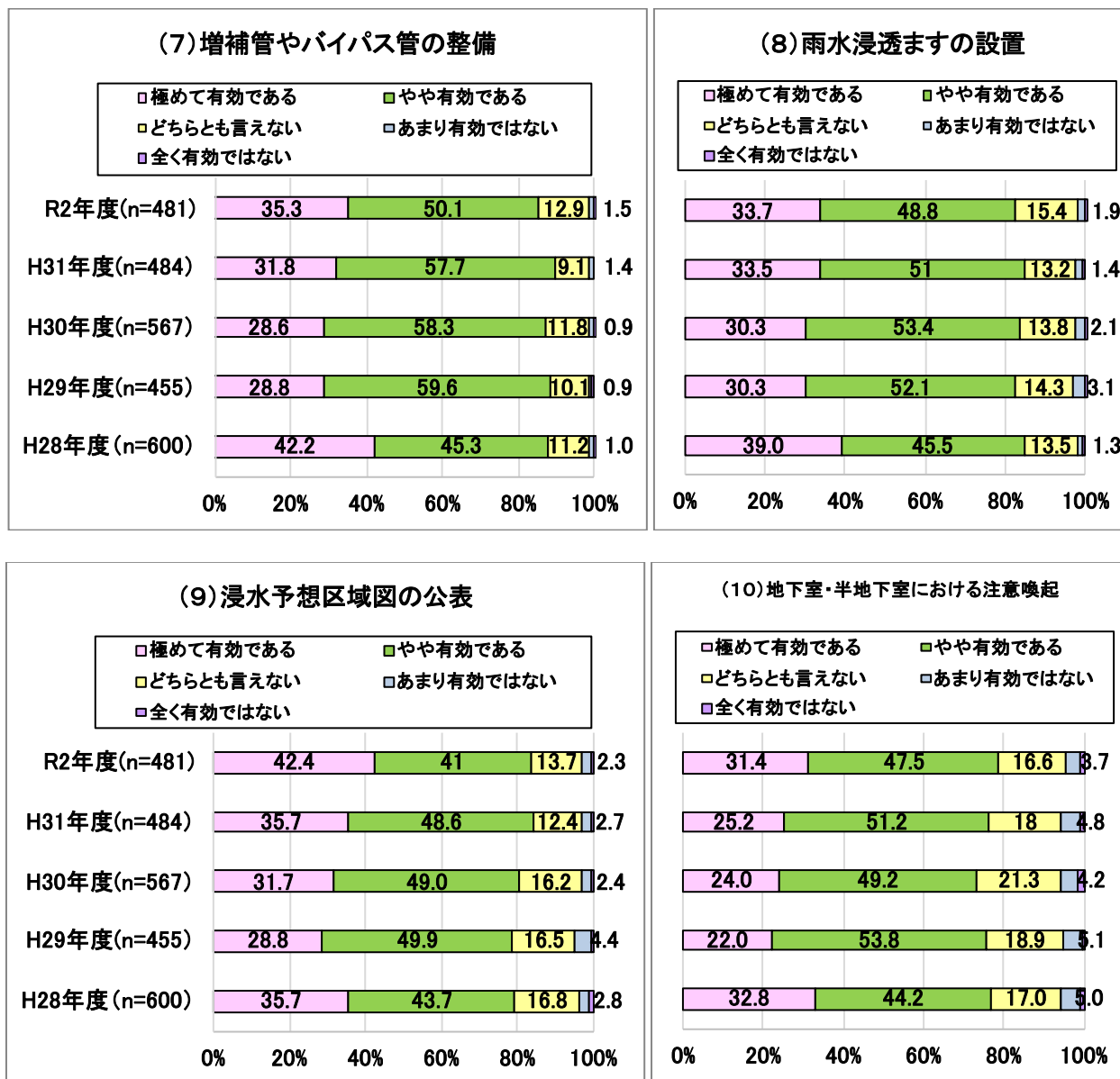


図3-1-3-2 下水道の浸水対策への取組についての評価（経年比較）

3.1.4 下水道の浸水対策への対応についての認識

- ◆ 下水道の浸水対策への対応についての認識では、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』が94.2%となった。
- ◆ 男女別にみると、『そう思う』との回答は、男性が91.5%、女性が97%となり、女性が男性より5.5ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『そう思う』は、20歳代、30歳代が100%と最も高く、次いで60歳代が95.6%となった。一方、50歳代は90%と最も低い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、『そう思う』は、23区部が94%、多摩地区が94.4%となり、23区部と多摩地区で顕著な差は見られなかった。
- ◆ 経年比較でみると、『そう思う』との回答は、本年度が94.2%、平成31年度が90.5%となり、本年度が平成31年度より3.7ポイント高い結果となった。

Q8 東京都下水道局では、区部全域で1時間50ミリの降雨に対して浸水被害の解消を図る取組を行っていますが、東京都区部において、平成25年度に下表のような浸水被害が発生しています。

あなたは、浸水対策において、整備水準のレベルアップを含めた対応が必要だと思いますか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答えください。

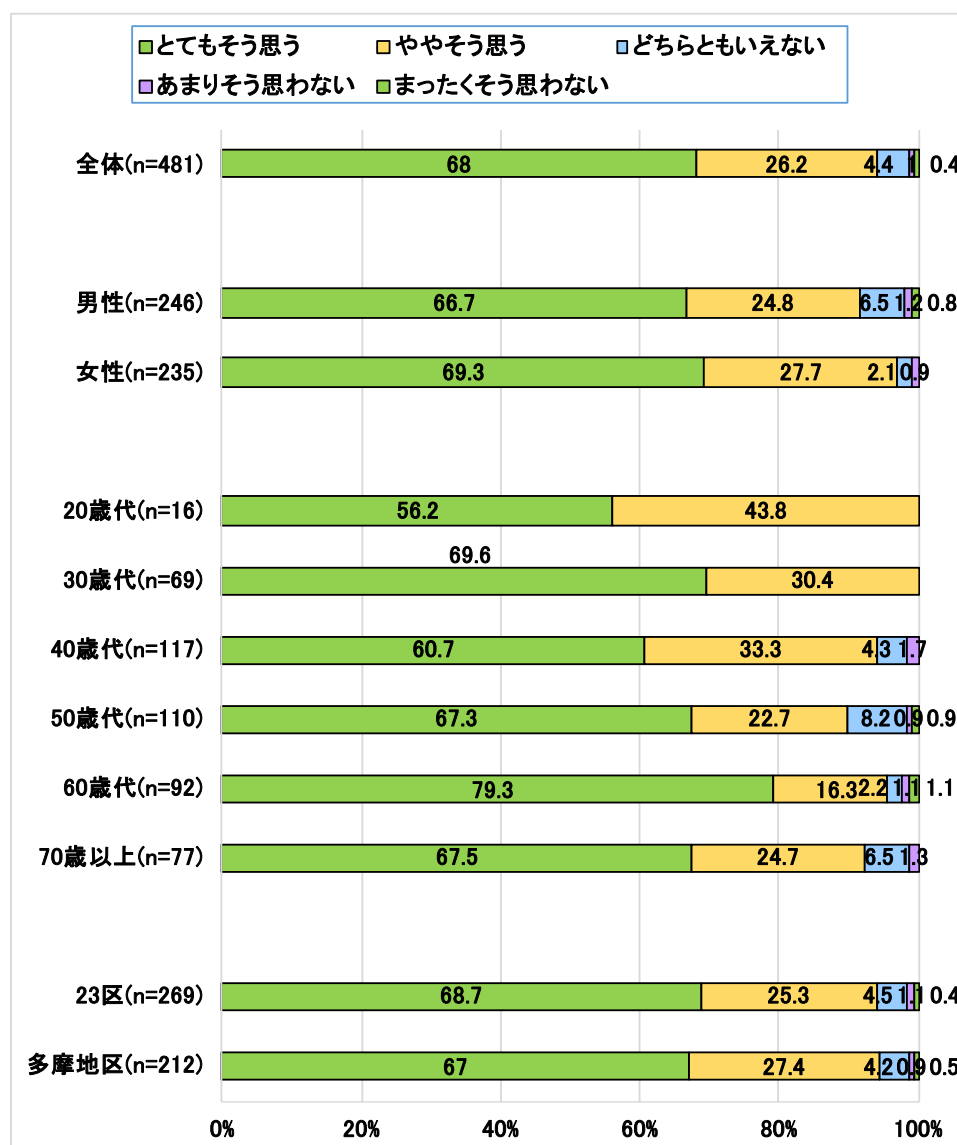


図3-1-4 下水道の浸水対策への対応についての認識

経年変化

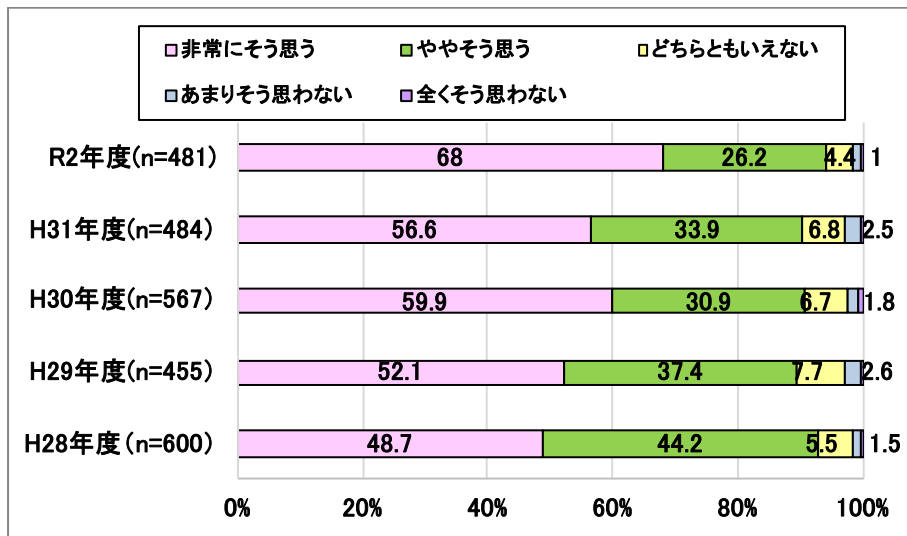


図 3 - 1 - 4 - 1 下水道の浸水対策への対応についての認識（経年変化）

3.1.5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度

- ◆ 豪雨対策下水道緊急プランの認知度について、「知っていた」が10.2%、「知らなかった」が89.8%となり、プランの認知度は非常に低いことが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、「知っていた」では男性が13%、女性が7.2%と、男性が女性より5.8ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「知っていた」では70歳以上が16.9%と最も高く、次いで60歳代が13%、50歳代が10.9%となった。
- ◆ 地区別にみると、「知っていた」では23区部が11.2%、多摩地区が9%となり、23区部が多摩地区より2.2ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると、「知っていた」はどの年度も10%前後と非常に低く、認知度向上のための対策が必要であることが明らかとなった。

Q9 東京都下水道局では、平成25年の局地的集中豪雨や台風により、甚大な浸水被害が生じたことから、雨水整備水準のレベルアップを含む検討を進めてきました。

平成25年12月、豪雨による浸水被害の軽減を目指して「豪雨対策下水道緊急プラン」を策定しました。あなたは、このプランを知っていましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答えください。

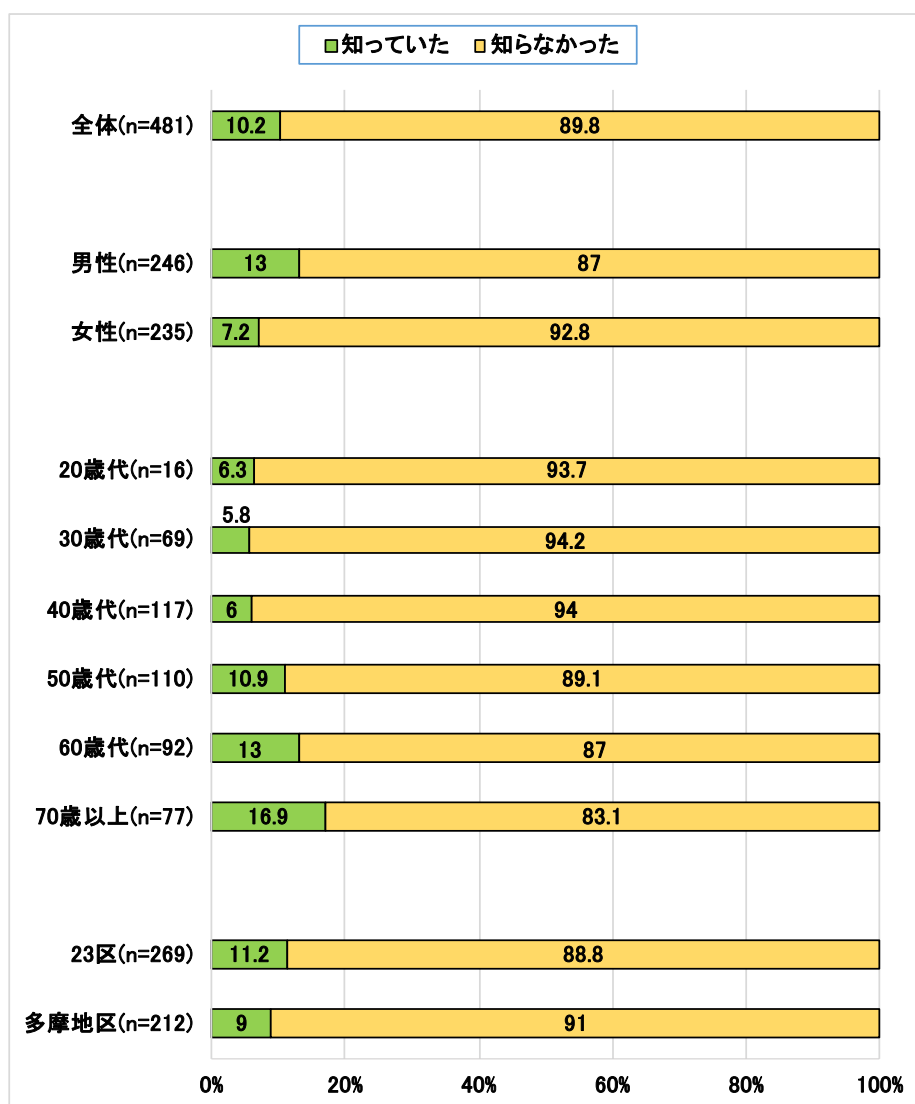


図3-1-5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度

経年変化

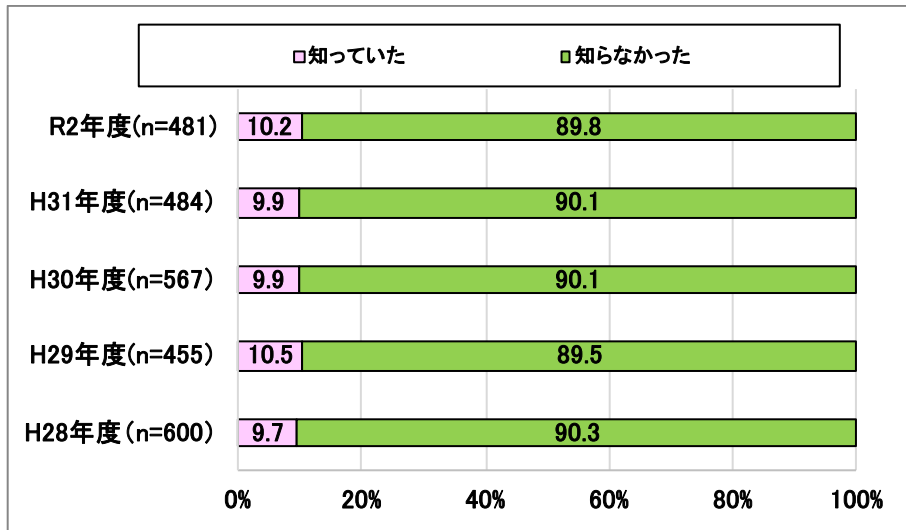


図 3 - 1 - 5 - 1 豪雨対策下水道緊急プランの認知度（経年変化）

3.1.6 豪雨対策下水道緊急プランの認識度

- ◆ 豪雨対策下水道緊急プランの認識度について、「よく理解できた」と「理解できた」を合わせた『理解できた』が72.6%となった。
- ◆ 男女別にみると、『理解できた』では男性が77.3%、女性が67.7%となり、男性が女性より9.6ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『理解できた』では60歳代が76%と最も高く、次いで50歳代が75.5%、70歳以上が72.7%となった。最も低い40歳代では68.3%となった。
- ◆ 地区別にみると、『理解できた』では23区部が72.5%、多摩地区が72.7%となり、23区部と多摩地区で顕著な差は見られなかった。
- ◆ 経年比較でみると、『理解できた』では、今年度は平成31年度調査より1.9ポイント高い結果となった。

Q10-1 「豪雨対策下水道緊急プラン」の概要版をご覧になったご感想を教えてください。

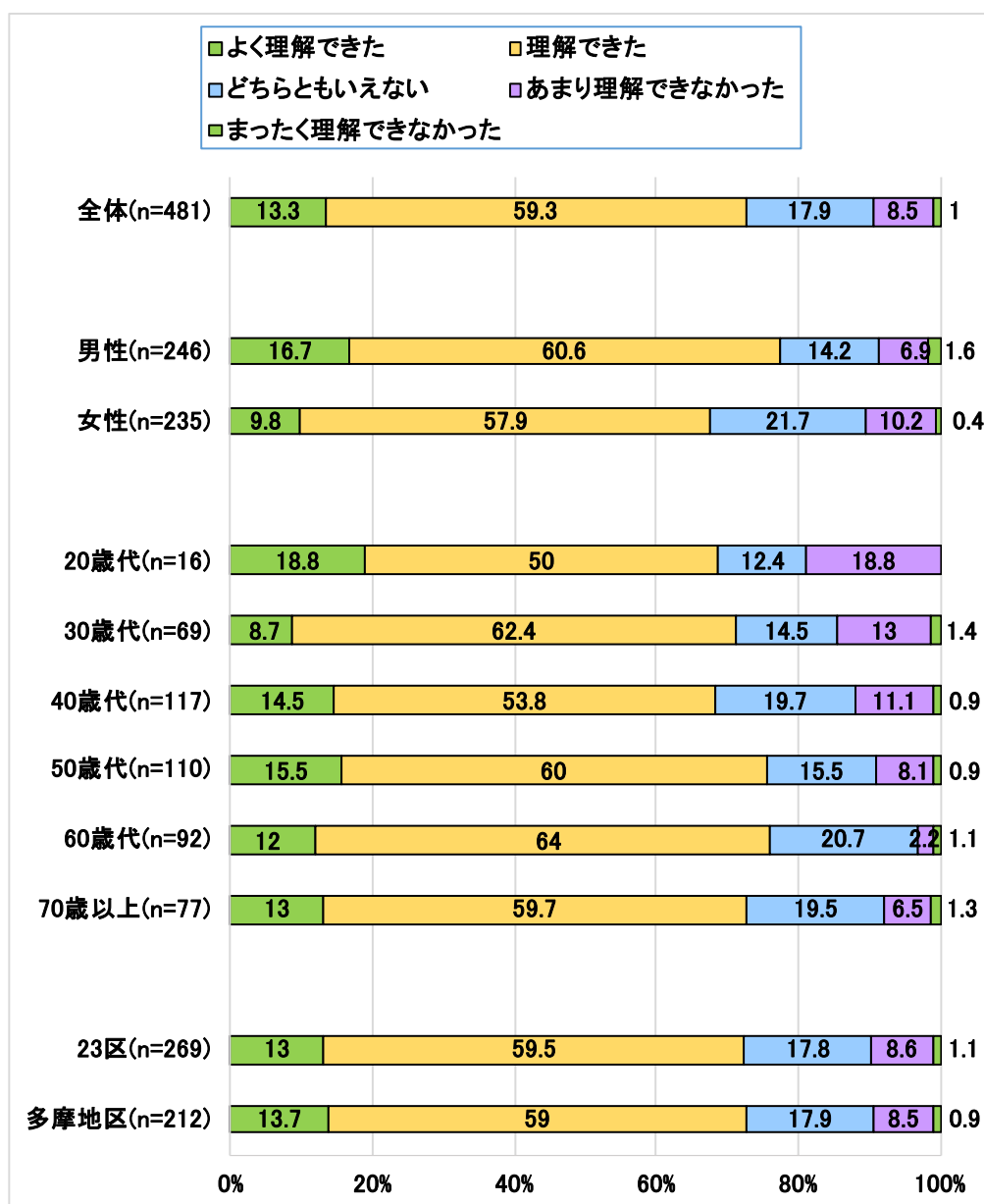


図3-1-6 豪雨対策下水道緊急プランの認識度

経年変化

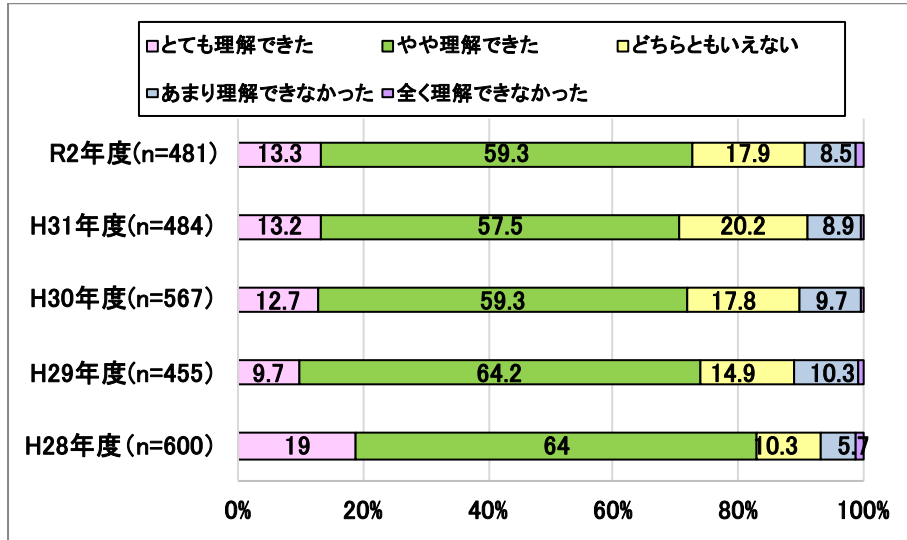


図 3 - 1 - 6 - 1 豪雨対策下水道緊急プランの認識度（経年変化）

3.1.7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度

- ◆ 豪雨対策下水道緊急プランの期待度について、「極めて有効である」と「有効である」を合わせた『有効である』は81.7%であった。
- ◆ 男女別にみると、『有効である』では男性が80%、女性が83.4%となり、女性が男性より3.4ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『有効である』では60歳代が85.8%と最も高く、次いで70歳以上が83.1%、50歳代が82.7%となった。
- ◆ 地区別にみると、『有効である』では23区部が81.7%、多摩地区が81.6%と、23区部と多摩地区で顕著な差は見られなかった。
- ◆ 経年比較でみると、『有効である』では今年度は平成31年度調査より3ポイントと上昇した。

Q10-2 「豪雨対策下水道緊急プラン」の評価を教えてください。

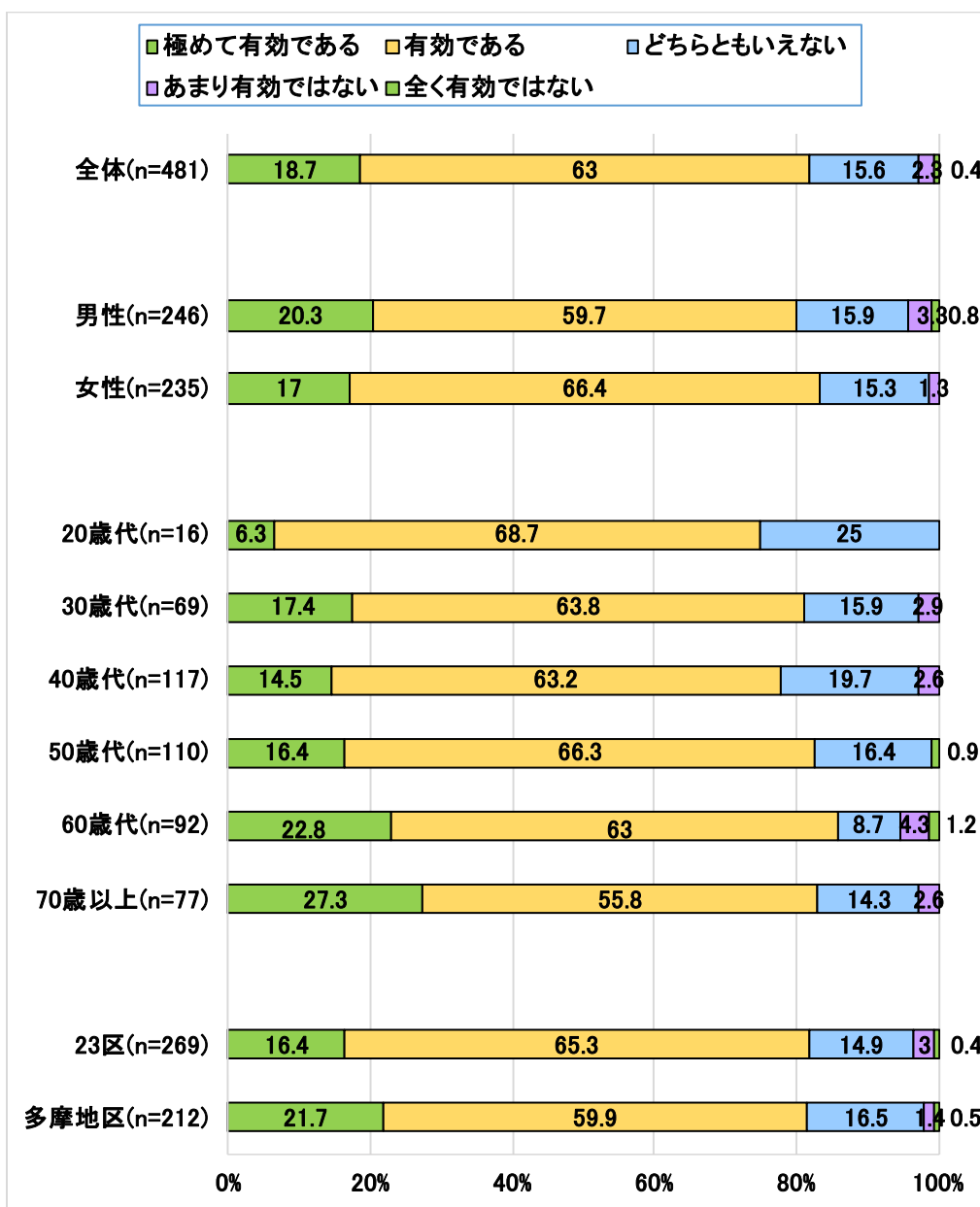


図3-1-7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度

経年変化

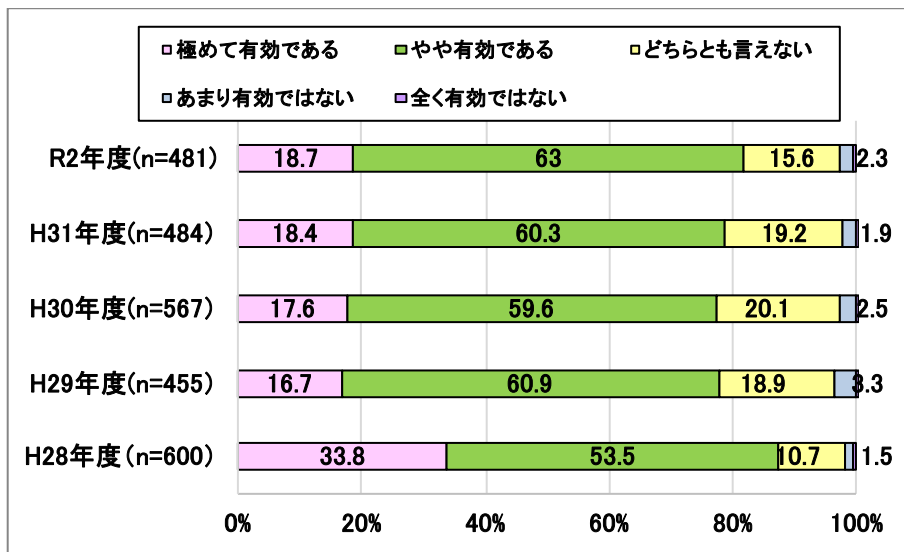


図 3-1-7-1 豪雨対策下水道緊急プランの期待度（経年変化）

3.2 家庭での浸水への対策について

3.2.1 「浸水対策強化月間」の認知度

- ◆ 「浸水対策強化月間」の認知度について、「内容や意味を知っている」と「少しは内容や意味を知っている」、「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』は44.9%で、認知度は4割以上であった。
- ◆ 男女別にみると、『認知度あり』では男性が50.8%、女性が38.7%と、男性が女性より12.1ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『認知度あり』では70歳以上が62.4%と最も高く、次いで60歳代が53.3%、40歳代が43.6%となった。
- ◆ 地区別にみると、『認知度あり』では23区部が47.6%、多摩地区が41.5%となり、23区部が多摩地区より6.1ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると、今年度の『認知度あり』は、平成31年度調査に比べ5.3ポイント上昇した。

Q11 あなたは、「浸水対策強化月間」についてご存知ですか。以下の選択肢の中から該当するものをお選びください。

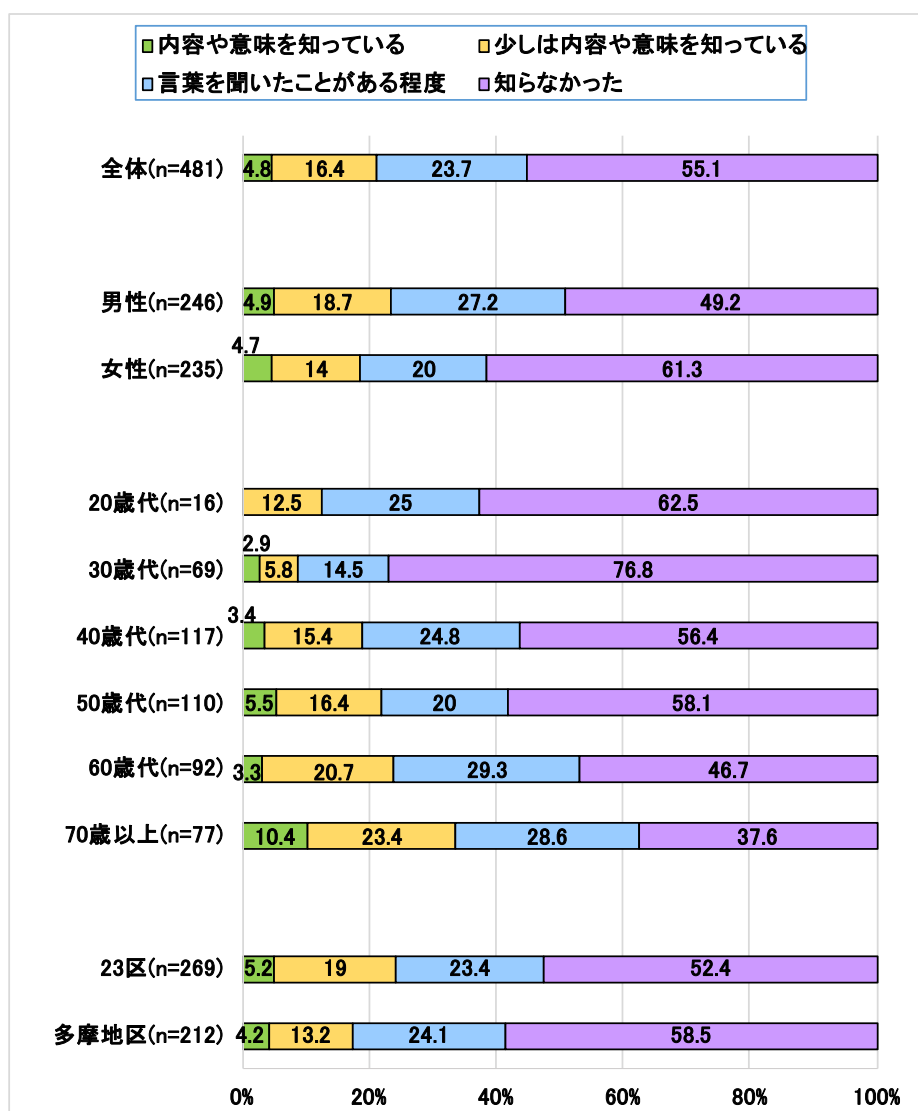


図3-2-1 「浸水対策強化月間」の認知度

経年変化

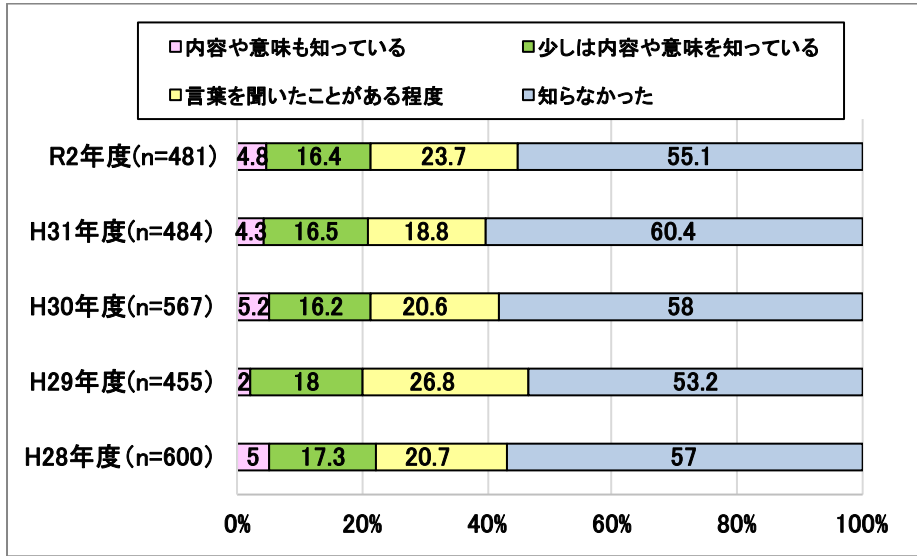


図3-2-1-1 「浸水対策強化月間」の認知度（経年変化）

3.2.2 「浸水対策強化月間」の認知経路

- ◆ 「浸水対策強化月間」の認知経路について、「東京都や東京都下水道局の広報誌」が49.5%と最も高く、次いで「東京都のホームページ」が27.3%、「東京都下水道局のホームページ」が26.4%となった。
- ◆ 男女別にみると、認知経路で「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答は、男性が47.2%、女性が52.7%で、女性が男性より5.5ポイント高かった。一方、「東京都下水道局のホームページ」との回答は、男性が33.6%、女性が16.5%で、男性が女性より17.1ポイント高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答は、23区部が47.7%、多摩地区が52.3%で多摩地区が23区部より4.6ポイント高い結果となった。「モニターメールマガジン」では23区部が11.7%、多摩地区が19.3%となり、多摩地区が23区部より7.6ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、認知経路の中で「東京都下水道局のホームページ」との回答が最も高かったのは50歳代の32.6%で、次いで70歳以上の27.1%となった。「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答は70歳以上が最も高く62.5%、次いで60歳代の55.1%となっており、年代が上がるとともに、紙媒体への依存度が高くなる傾向が見られた。
- ◆ 経年比較でみると、今年度の「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答は、平成31年度調査に比べ4.2ポイント上昇した。

Q12 上記Q11で、「1～3」を選択された方におたずねします。

「浸水対策強化月間」をどこで知りましたか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答えください。

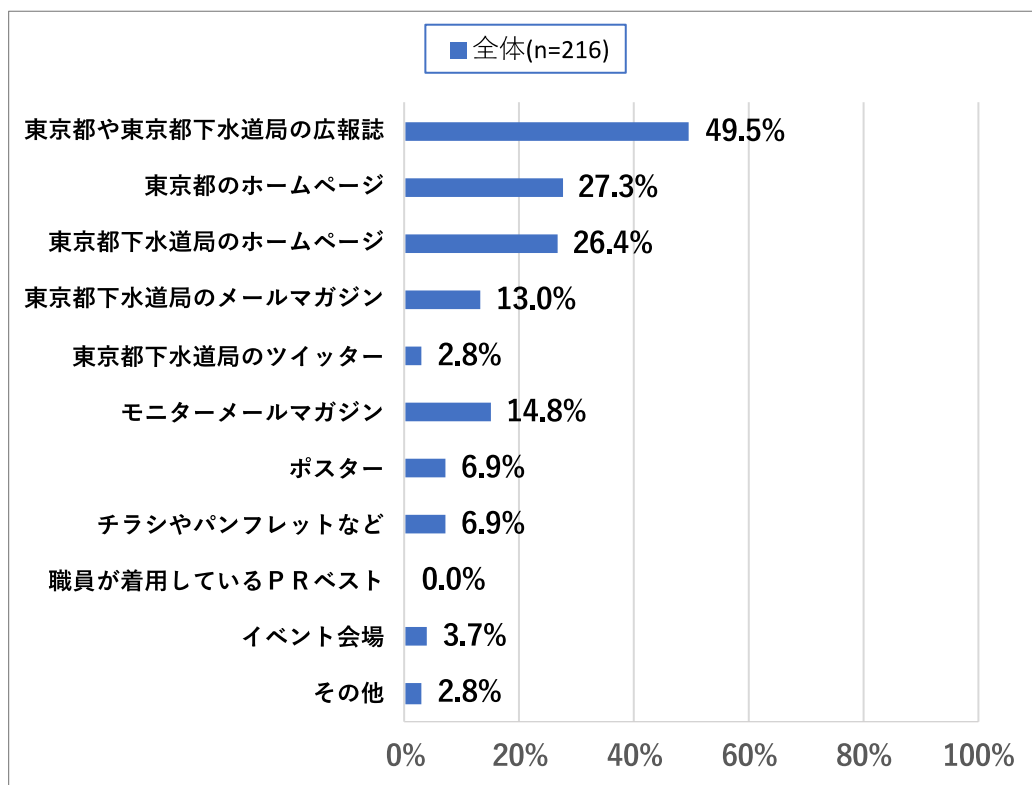


図3-2-2 「浸水対策強化月間」の認知経路

表 3-2-2 「浸水対策強化月間」の認知経路（その他）

No	その他	件数
1	区報	3
2	東京アメッシュの内の広告	1
3	昨年商店街を歩いていた時に職員の方から説明を受け、下水道に興味を持つようになった。	1
4	覚えていない	1
計		6件

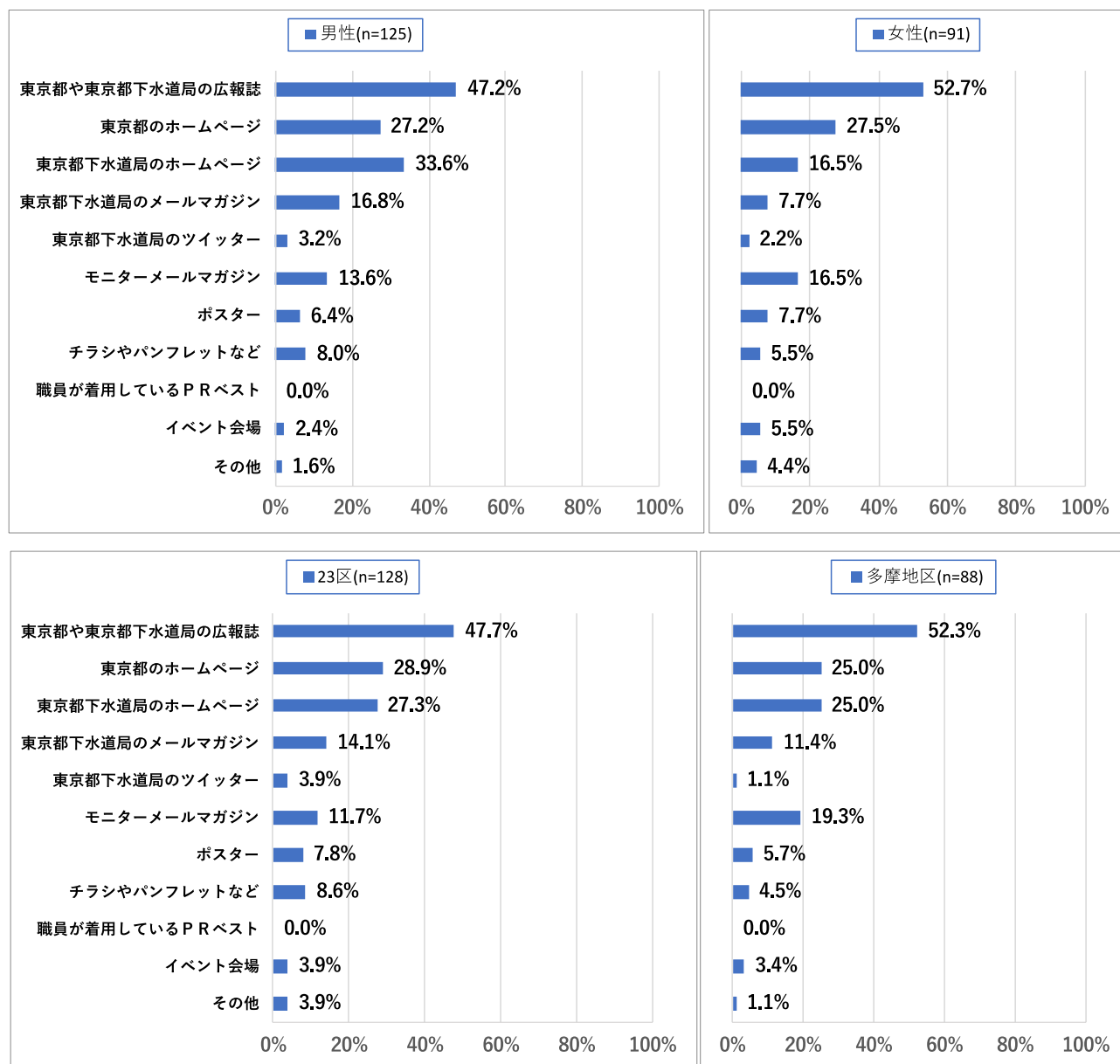


図 3-2-2-1 「浸水対策強化月間」の認知経路（性別・地区別）

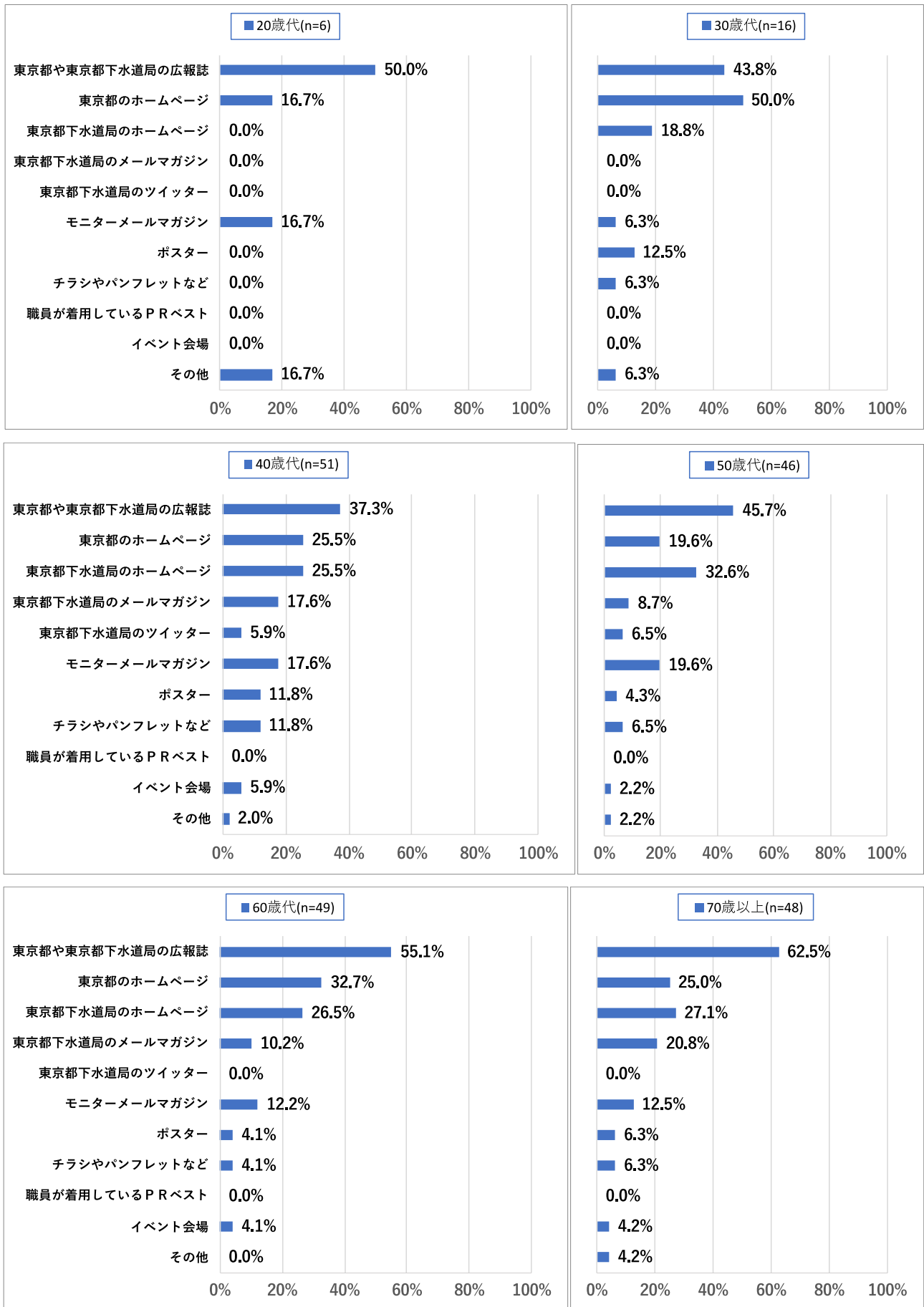


図3-2-2-2 「浸水対策強化月間」の認知経路（年齢別）

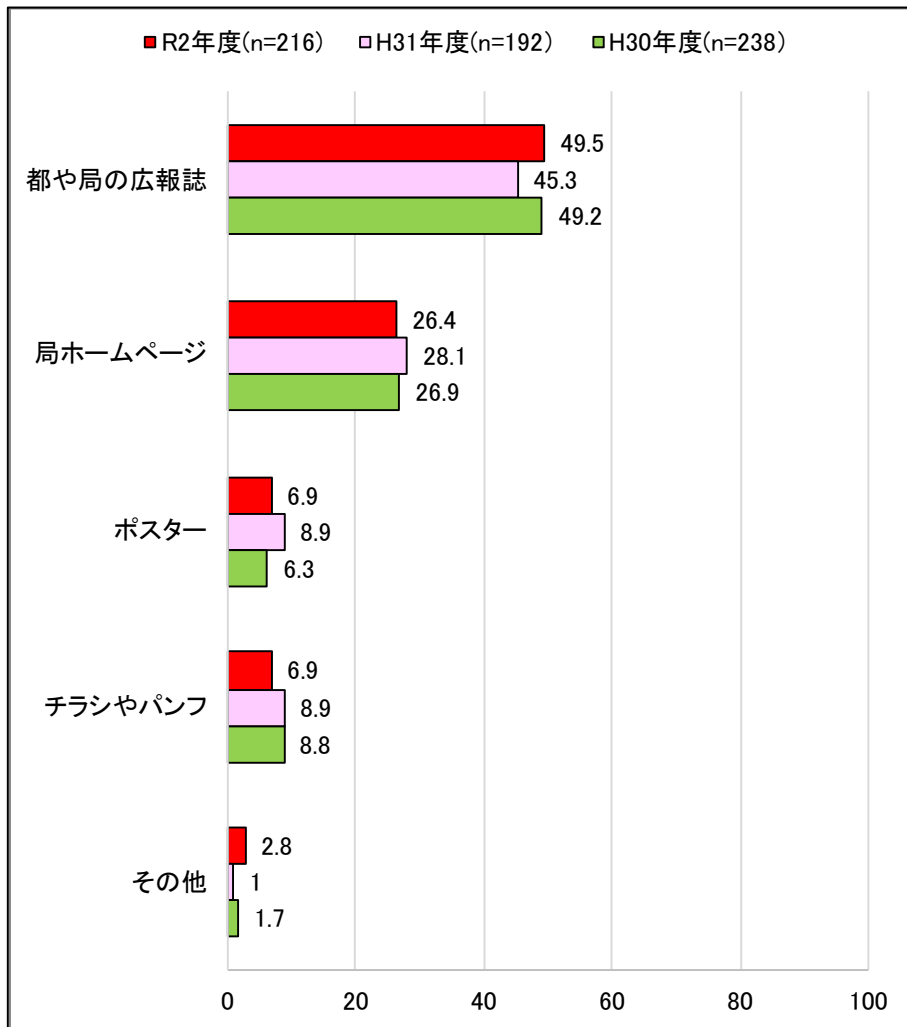


図 3 - 2 - 2 - 3 「浸水対策強化月間」の認知経路（経年比較）

3.2.3 「浸水対策強化月間」のイベントについて

- ◆ 「浸水対策強化月間」のイベントについて、「参加したことがある」は 2.3%、「イベントが開催されていることは知っているが、参加したことはない」は 23.1%、「イベントが開催されていることを知らないし、参加したことはない」は 74.6%となり、イベントへの参加率は非常に低いことが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、「イベントが開催されていることを知らないし、参加したことはない」では男性が 69.6%、女性が 80%となり、女性が男性より 10.4 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「参加したことがある」方は 40 歳未満の方にはおらず、割合が最も高かった 70 歳以上でも割合は 3.9%だった。「イベントが開催されていることを知らないし、参加したことはない」は 30 歳代が 92.8%と最も高い結果となり、若い年代への周知方法の改善が重要な課題であると考えられた。
- ◆ 地区別にみると、「イベントが開催されていることを知らないし、参加したことはない」では 23 区部が 76.6%、多摩地区が 72.1%と、23 区部が多摩地区より 4.5 ポイント高い結果となった。

Q13 「浸水対策強化月間」のイベント（店頭PR、施設見学会、建設工事現場見学会）に参加されたことはありますか。

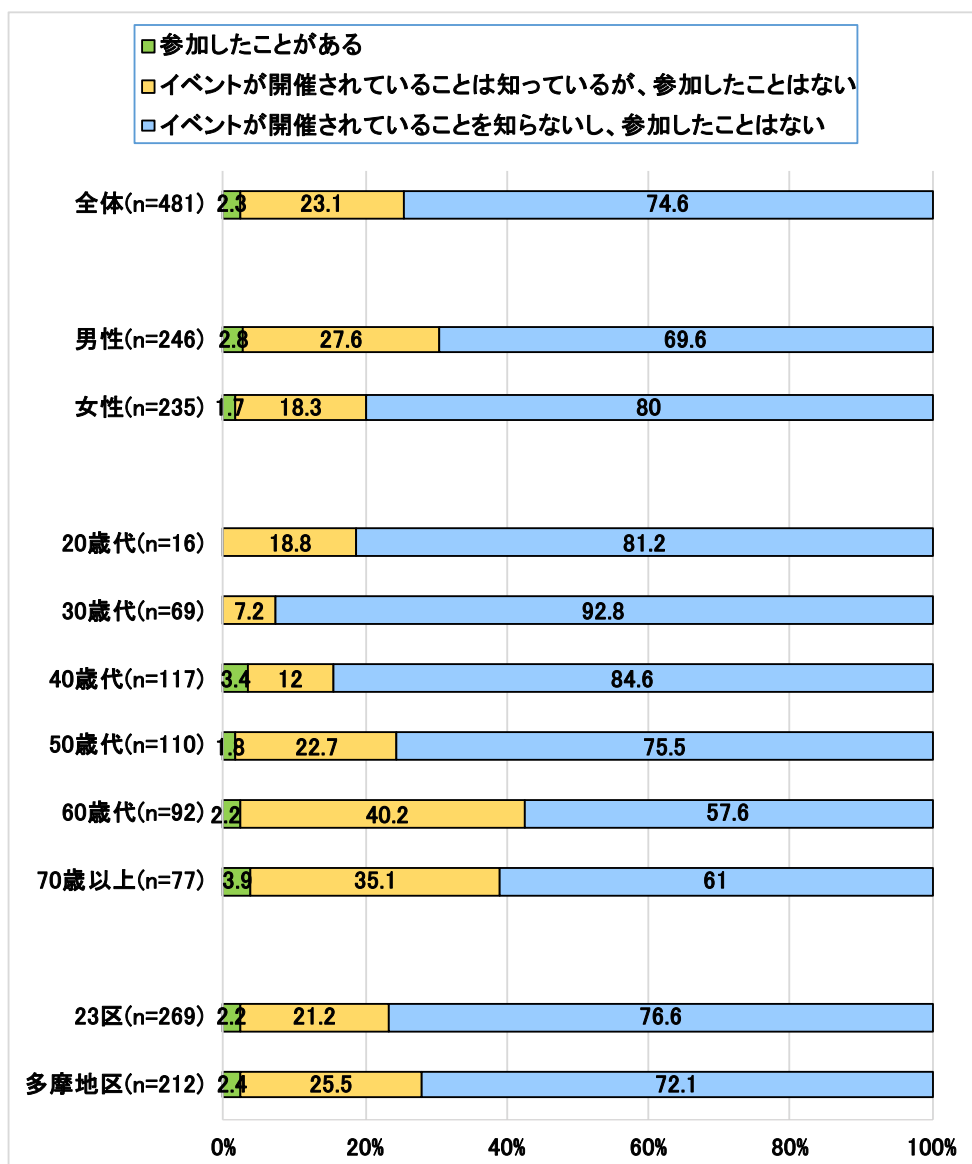


図3-2-3 「浸水対策強化月間」のイベントについて

3.2.4 「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路

- ◆ 「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路について、「東京都下水道局のホームページ」が 60.7%と最も高く、次いで「東京都下水道局のメールマガジン」が 27%、「モニターメールマガジン」が 23%となっており、メールマガジンやホームページなど局の電子媒体によるPR手段が効果を出していることが明らかとなった。
- ◆ 「浸水対策強化月間」のイベントに参加された理由について、「浸水対策に興味・関心があったから」が 81.8%と最も高い結果となった。
- ◆ 「浸水対策強化月間」のイベントに参加できなかった理由について、「スケジュールが合わなかったから」が 79.3%と最も高い結果となった。

Q14-1 上記Q13で、「1～2」を選択された方におたずねします。

「イベント情報」をどこで知りましたか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答えください。

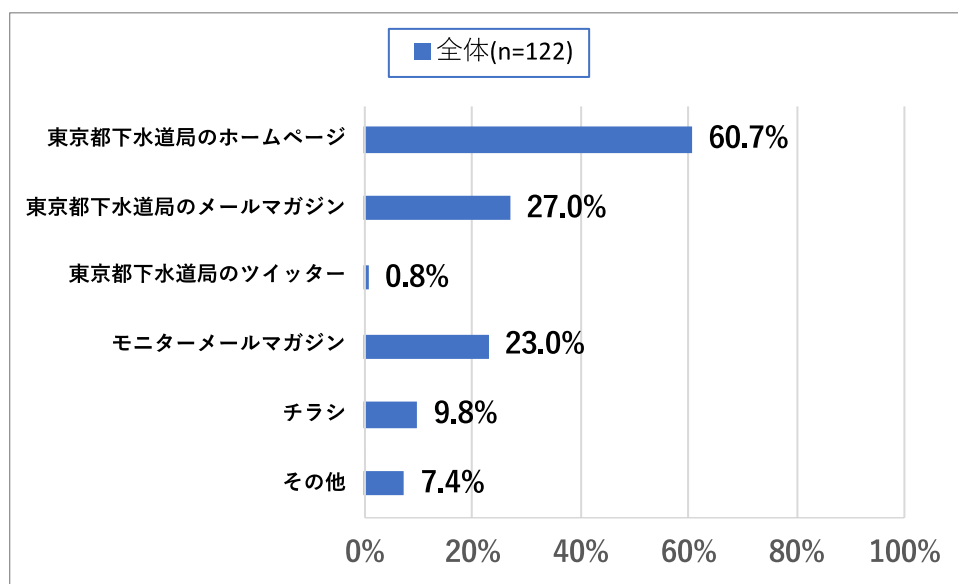


図3-2-4-1 「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路について

表3-2-4-1 「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路について（その他）

No	その他(一部抜粋)	件数
1	東京都広報	5
2	地元のフリーマーケットの出品者から聞きました。	1
3	小学校のお知らせ	1
4	クチコミ	1

Q 14-2 上記Q 13で、「1」を選択された方におたずねします。

イベントに参加された理由を教えてください。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答えください。

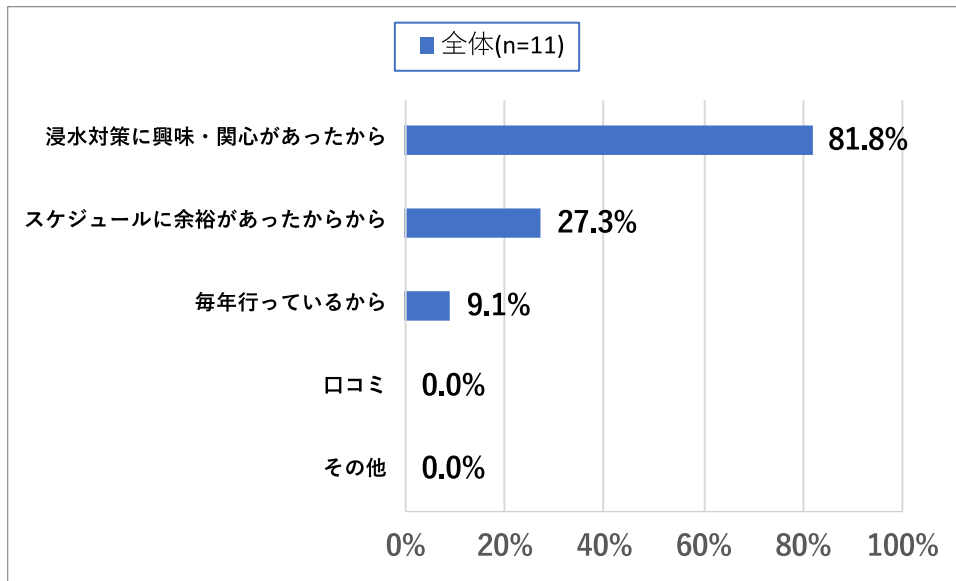


図 3-2-4-2 「浸水対策強化月間」のイベントに参加された理由について

Q 14-3 上記Q 13で、「2」を選択された方におたずねします。

イベントに参加できなかった理由を教えてください。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答えください。

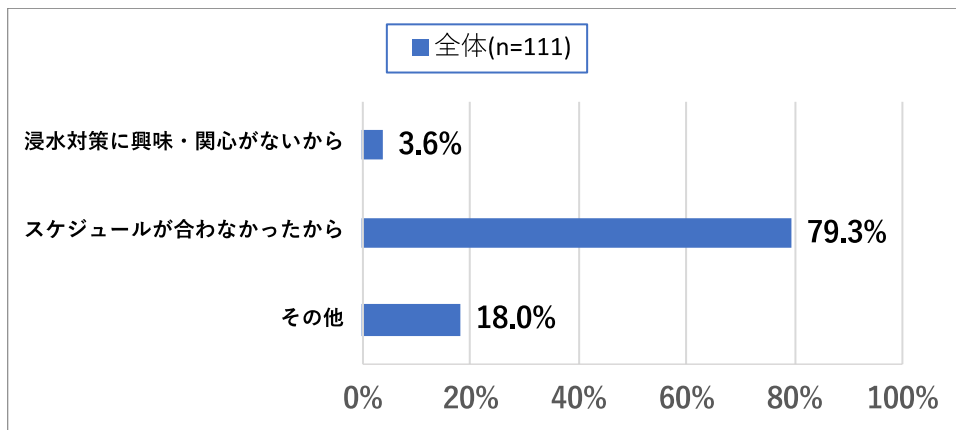


図 3-2-4-3 「浸水対策強化月間」のイベントに参加できなかった理由について

表 3-2-4-3 「浸水対策強化月間」のイベントに参加できなかった理由について（その他）

No	その他(一部抜粋)	件数
1	新型コロナを考慮した	6
2	会場が遠い、外出を自粛	6

3.2.5 家庭での浸水対策について

- ◆ 家庭での浸水対策について、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」が 62.6%と最も高く、次いで「自宅の雨どいや排水口を掃除している」が 38.9%、「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」が 27.9%となった。一方、「上記の設問の中でやっているものはない」の回答も 18.7%あった。
- ◆ 男女別にみると、男女ともに回答率が高かったのは「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」で、男性が 57.3%、女性が 68.1%と女性が男性より 10.8 ポイント高かった。次いで「自宅の雨どいや排水口を掃除している」が男性で 34.1%、女性で 43.8%となり、女性が男性より 9.7 ポイント高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」では、23 区部が 59.9%、多摩地区が 66%となり、多摩地区が 23 区部より 6.1 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、どの年代も「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」の割合が高く、50 歳代が 68.2%と最も高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると、「避難場所の確認をしている」は、平成 31 年度の 47.1%に対し、今年度は 62.6%と 15.5 ポイント上昇した。

Q15 次に「浸水への備え」についておうかがいします。

次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～5」については該当するものをいくつでもお答え下さい。「1～5」で該当するものがない場合は、「6」をお選びください。

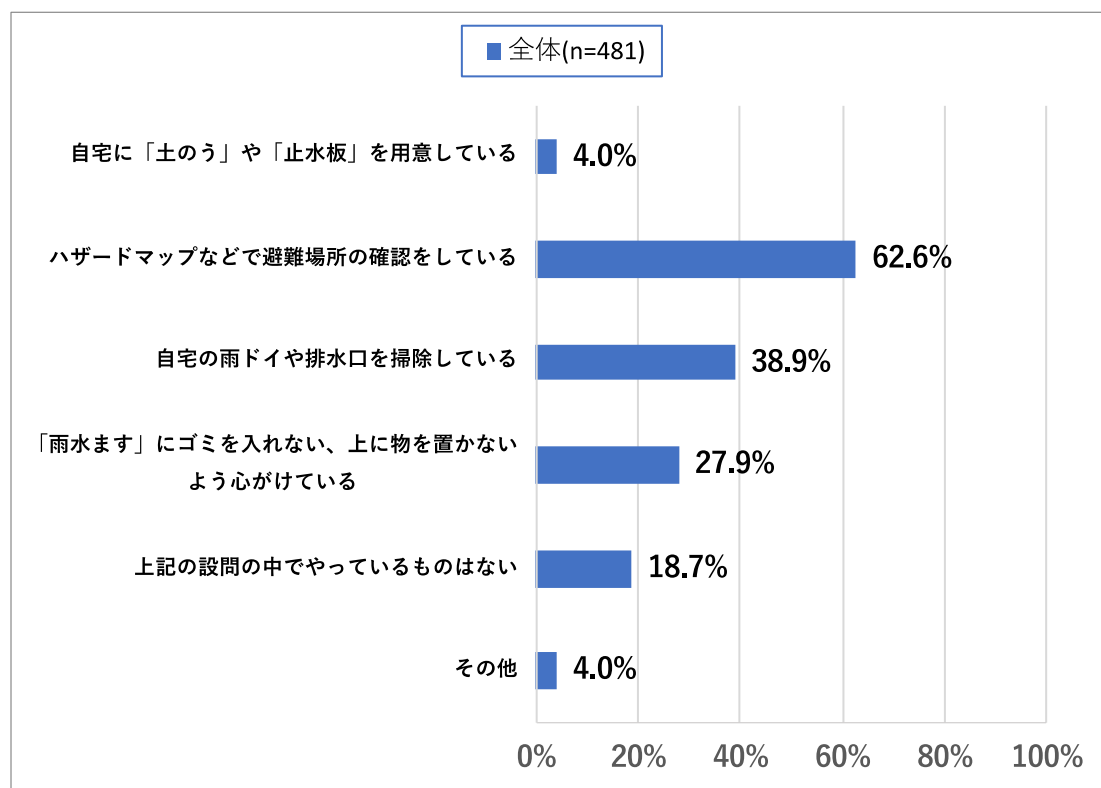


図 3-2-5 家庭での浸水対策について

表 3-2-5 家庭での浸水対策について（その他）

No	その他(一部抜粋)	件数
1	浸水の可能性の少ない高台や高層階に所に居住	5
2	土のう、水のうの準備	5
3	雨水浸透ますを設置、雨水タンクの設置	2
4	浸水の可能性が発生した場合の車両避難場所の目処だけつけている	1
5	役所、気象庁等のメルマガ登録で、浸水情報を早期に把握するように努めている	1

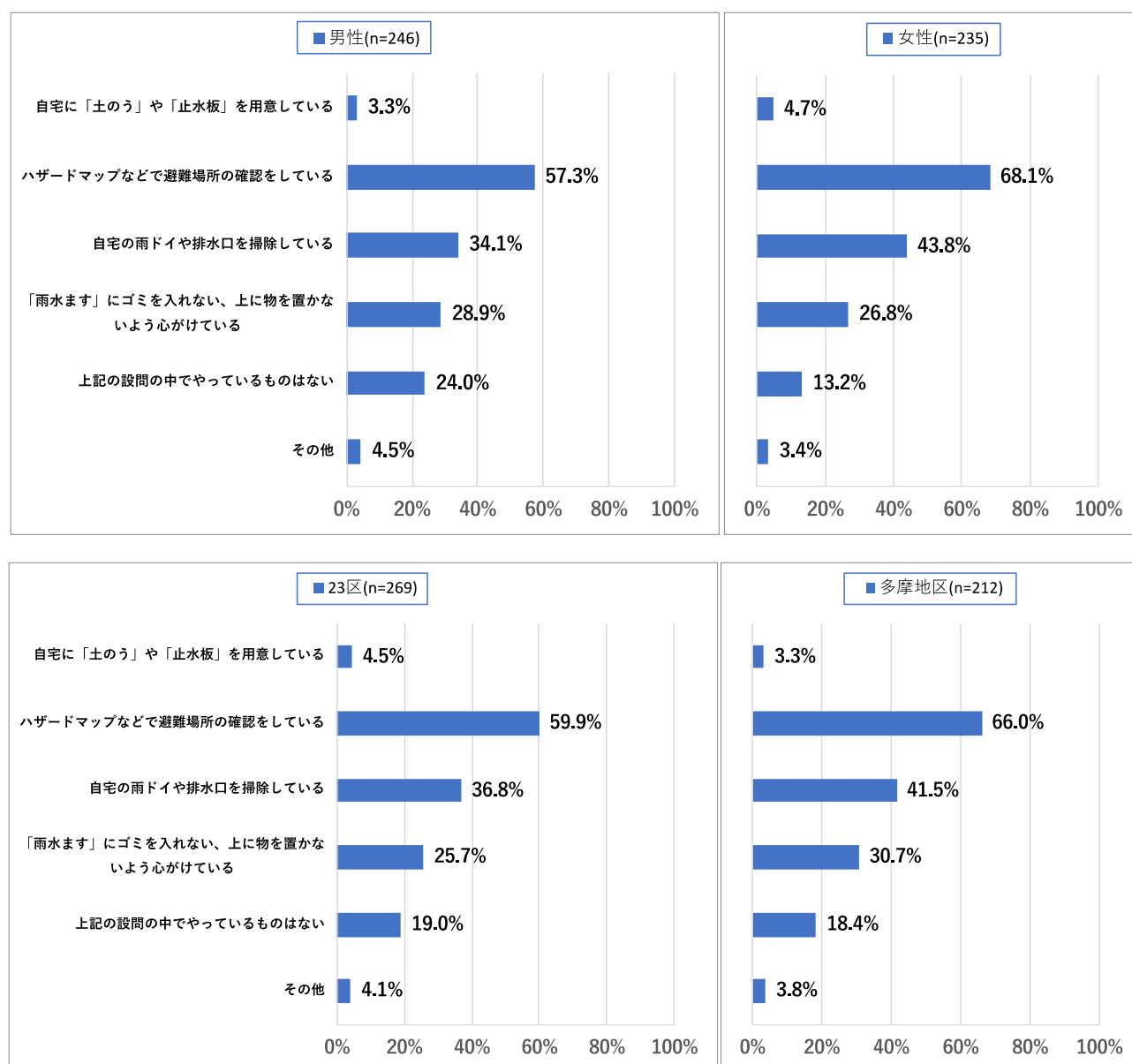


図 3-2-5-1 家庭での浸水対策について（性別・地区別）

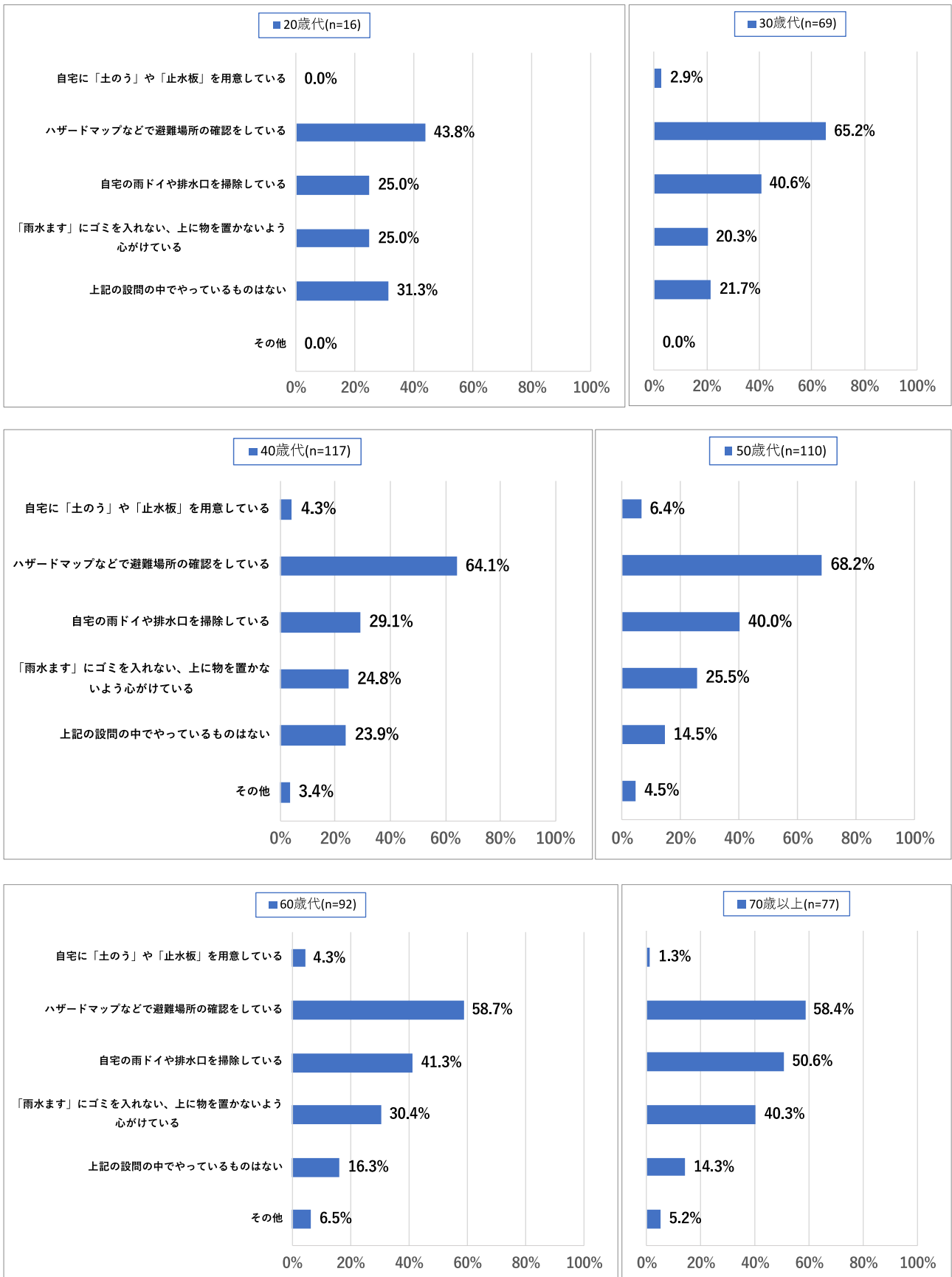


図 3-2-5-2 家庭での浸水対策について（年代別）

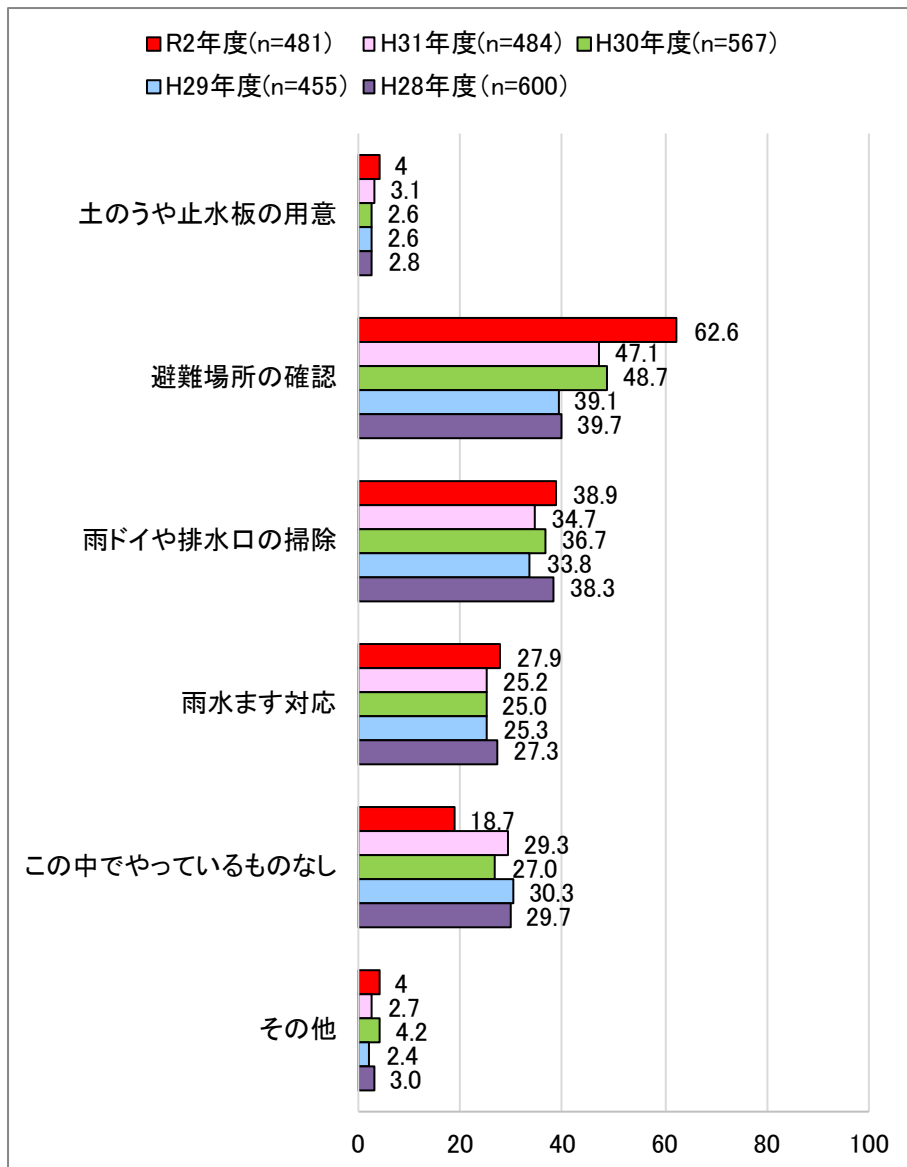


図 3 - 2 - 5 - 3 家庭での浸水対策について（経年比較）

3.2.6 家庭での浸水対策の安全性

- ◆ 家庭での浸水対策の安全性について、「安全だと思う」と「たぶん安全だと思う」を合わせた『安全だと思う』は76.1%で、多くのご家庭で浸水対策への認識は高いことが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、『安全だと思う』では男性が76.9%、女性が75.3%となり、男性が女性より1.6ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『安全だと思う』の割合は年代の上昇とともに高くなる傾向を示し、特に70歳以上は90.9%と最も高かった。
- ◆ 地区別にみると、『安全だと思う』では23区部が71.7%、多摩地区が81.6%となり、多摩地区が23区部に比べ9.9ポイント高い結果となった。

Q16 あなたの自宅は、大雨による浸水に対して安全だと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。

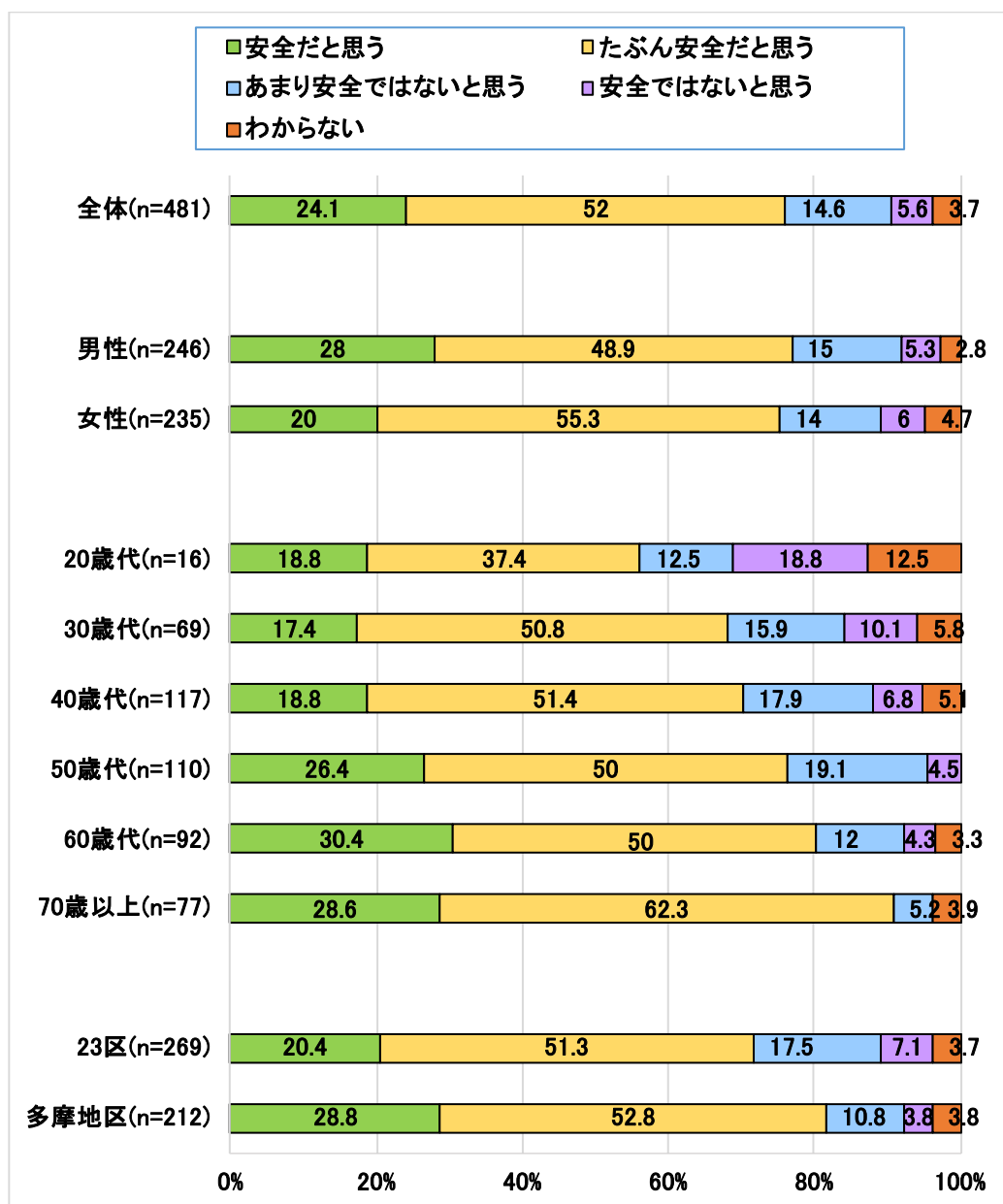


図3-2-6 家庭での浸水対策の安全性

3.2.7 家庭での浸水対策の安全性に対する理由

- ◆ 家庭での浸水対策の安全性に対する理由について、【安全だと思う、たぶん安全だと思う】では、「高台に居住」が25.7%と最も高く、次いで「高層階に居住」が22.7%となった。
- ◆ 【あまり安全ではないと思う、安全ではないと思う】では、「川が近い」が29.9%と最も高く、次いで「ハザードマップを見て」が22.7%となった。
- ◆ 「ハザードマップを見て」は安全性に対する理由として挙げた方は合わせて37.5%となり、多くの方がハザードマップを安全性の基準にされていることが分かった

Q17 上記Q16で、大雨による浸水に対する安全について、あなたがそのようにお答えになった理由を教えてください。

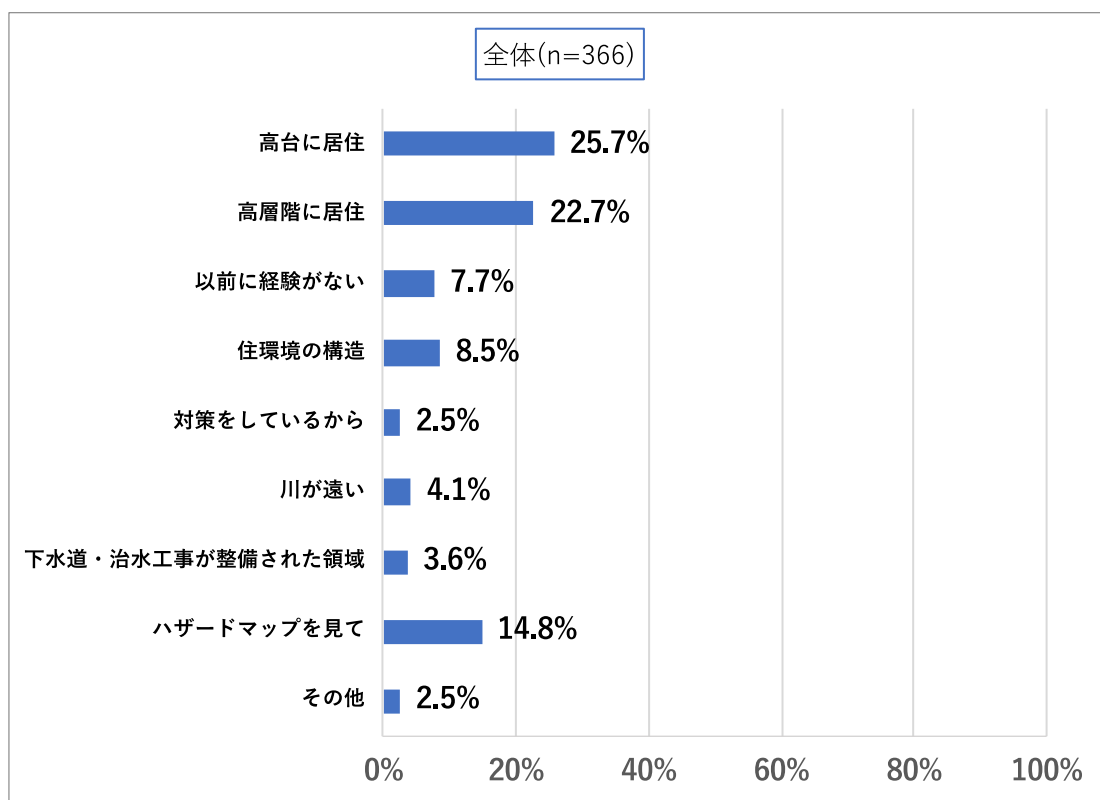


図3-2-7-1 家庭での浸水対策の安全性に対する理由
(安全だと思う、たぶん安全だと思う)

【家庭での浸水対策の安全性に対する理由】 (安全だと思う、たぶん安全だと思う)

- 高台に居住
 - ◇ 比較的土地の高いところに自宅があるので浸水の心配はないと思っている
 - ◇ 地盤がしっかりしている高台に住んでいるので安全と考えている。また日頃から、リスク対応を実施している。

- 高層階に居住
 - ◇ 10階居住なので浸水はあまり心配していない。
 - ◇ マンションの5階だから、戸建てに比べて安全かなと思っている

- 以前に経験がない
 - ◇ ここに住んで45年が経ちますがこの辺りは砂利層が多く大雨による浸水が一度も無いので多分安全かと思っている。
 - ◇ 70年近く住んでいるが、これまで浸水被害が無かったから。

- 対策をしているから
 - ◇ 大雨が予想される時は管理会社がマンション入り口とエレベーター前に金属性のついたてを設置しているから。
 - ◇ 集合住宅の管理会社に、大雨対策に対応してもらっている。高台に位置しているため、過去水害が起きていないことを確認している。大雨時は、都度情報収集を行なっている。
 - ◇ 自治会等で対策を講じているため。

- 川が遠い、立地が高所
 - ◇ 川の近くに住んでいないから。少し小高いところに家があるから。
 - ◇ 川が近くにはない。立地がやや高いところ。マンションの入り口に止水板がある。地下の駐車場は心配である。

- 下水道・治水工事が整備された領域
 - ◇ 下水道が整備されている。家を建てる時、地盤の調査をきちんとやったこと等。
 - ◇ いざという時に下水道がきちんと機能してくれるだろうから。
 - ◇ 雨水貯留施設が出来て、神田川の溢流や、下水の排水能力が高まった。

- ハザードマップを見て
 - ◇ ハザードマップで確認をし、海拔の数値も確認したから。
 - ◇ ハザードマップ等から自宅の浸水危険度をある程度予測することが可能なため。

- その他
 - ◇ 早目に避難する
 - ◇ 昨年の台風19号で大丈夫だったから
 - ◇ 安全だと信じているから

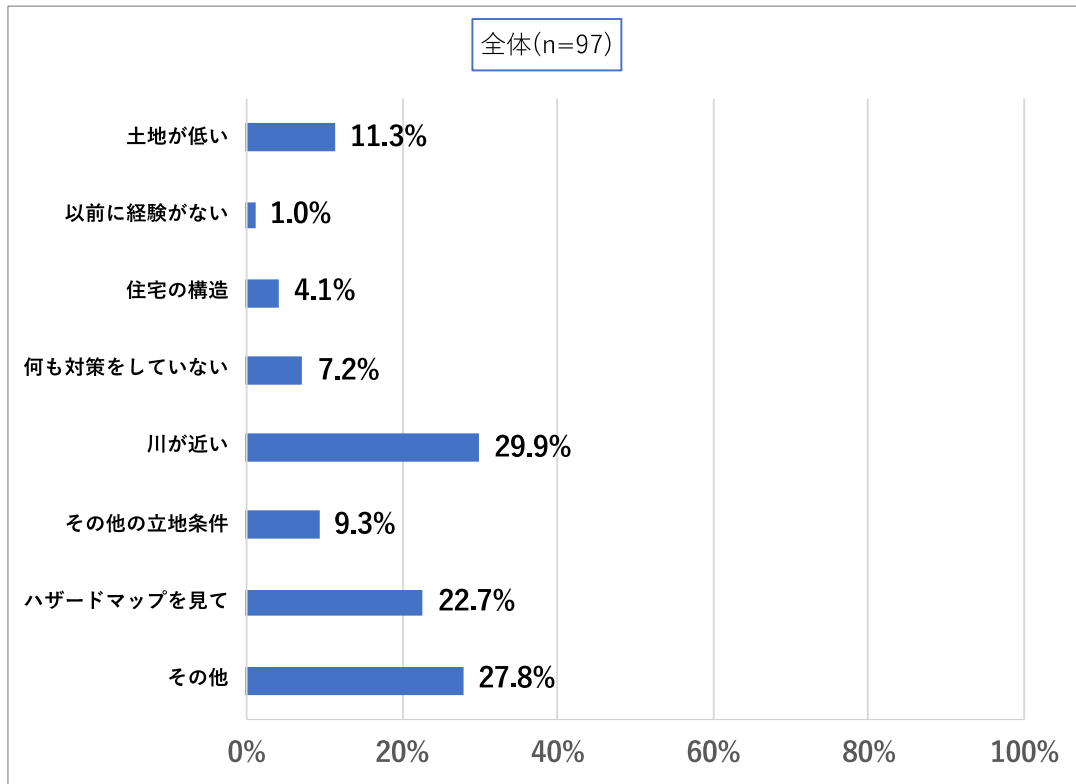


図3-2-7-2 家庭での浸水対策の安全性に対する理由
(あまり安全ではないと思う、安全ではないと思う)

【家庭での浸水対策の安全性に対する理由】
(あまり安全ではないと思う、安全ではないと思う)

- 土地が低い
 - ◇ 低地に住居があり、荒川や隅田川が溢れると浸水することが予想されるので
 - ◇ 最近のゲリラ豪雨の時に1階が浸水した。以後、土嚢を多めに用意して対策しているが、坂道の下という地形的な問題には勝てないから。
- 住宅の構造
 - ◇ マンションの一階の為、ベランダの排水口から大雨の時に雨水が、逆流して来る事が有るので。
 - ◇ うちのマンションは、周りのマンションに比べ、防潮壁が低いと聞いているので。
- 川が近い
 - ◇ 川が近い為、想定外の大雨に対しては地形的に不安があるから。
 - ◇ 河川がそばに流れていてハザードマップでは床上浸水の地域になっているので。
- ハザードマップを見て
 - ◇ ハザードマップでは危険地区だから
- その他(立地条件など)
 - ◇ 台風の際、家の裏山からの土砂からの浸水があったため。
 - ◇ 建物が高い位置にある住宅なので大丈夫かと思うが、災害の起こるときは意外性があるので心配。

3.3 東京アメッシュについて

3.3.1 東京アメッシュの利用の有無

- ◆ 東京アメッシュの利用の有無について、『利用している』が43.7%、「利用してみたが、今は利用していない」と「利用していない」を合わせた『利用していない』が56.3%となった。
- ◆ 男女別にみると、『利用している』では男性が43.9%、女性が43.4%と、男性が女性より0.5ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『利用している』では40歳代が50.4%と最も高くなっており、次いで50歳代が47.2%、70歳以上が44.1%、30歳代が40.6%となった。
- ◆ 地区別にみると、『利用している』では23区部が45.7%、多摩地区が41%となり、23区部が多摩地区より4.7ポイント高い結果となった。

Q18 あなたは、「東京アメッシュ」をご利用になりましたか？以下の選択肢の中から、該当するもの一つだけお選びください。

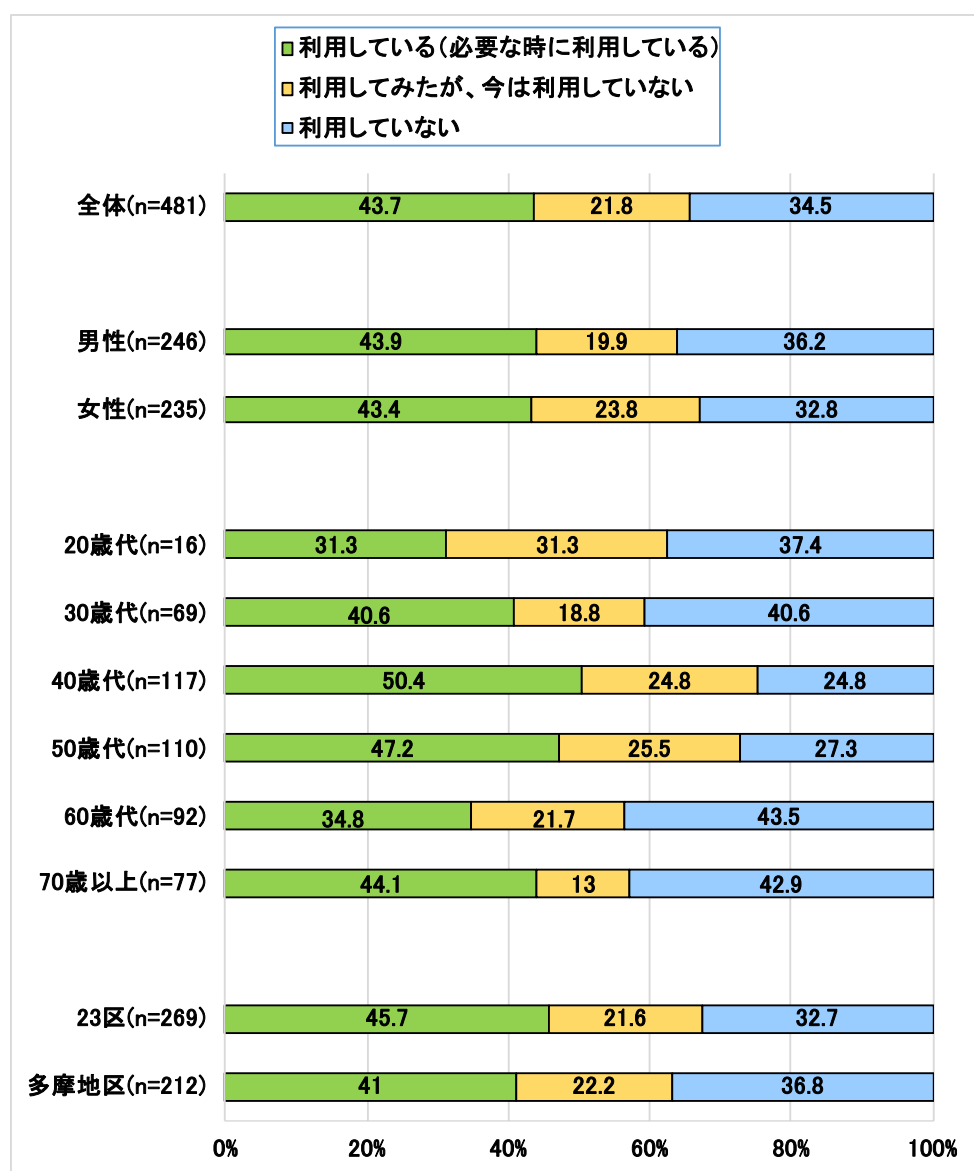


図3-3-1 東京アメッシュの利用の有無

3.3.2 東京アメッシュの利用方法

- ◆ 東京アメッシュの利用方法について、「パソコン版」が29%、「スマートフォン版」が43.4%、「パソコン版とスマートフォン版の両方」が27.6%となり、スマートフォン版の利用が多いことが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、「スマートフォン版」の利用は男性が65.7%、女性が76.5%と、女性が男性より10.8ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「パソコン版」の利用は、70歳以上が67.6%と最も高く、40歳代が50.8%と最も低かった。「スマートフォン版」では40歳代が83.1%と最も高くなっており、次いで20歳代が80%、30歳代が75%という結果になり、年代の若い層では「スマートフォン版」の利用が多いことが明らかとなった。

Q19-1 上記Q18で、「1」を選択された方におたずねします。

(1) あなたは、「東京アメッシュ」について、パソコン版、又は、スマートフォン版のどちらをご利用になりましたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。

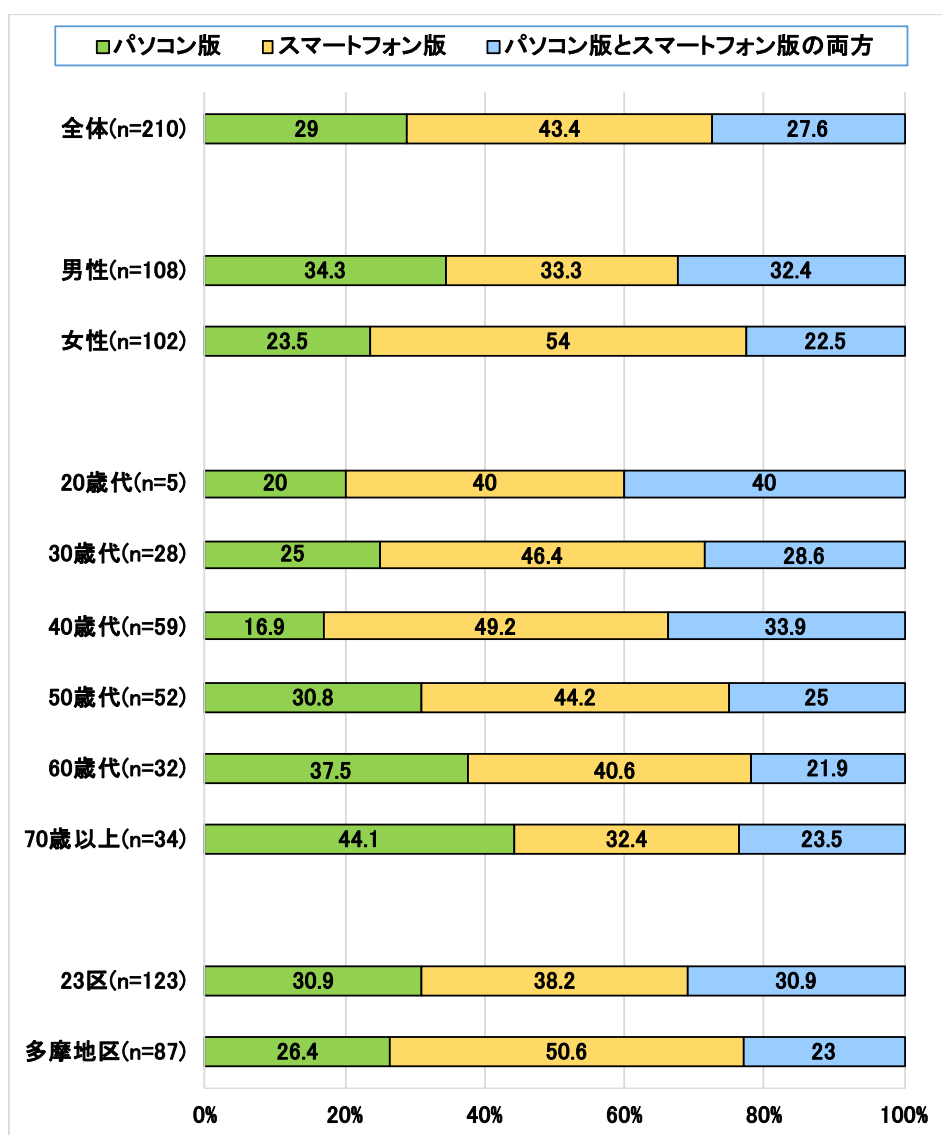


図3-3-2 東京アメッシュの利用方法

3.3.3 東京アメッシュの利用頻度

- ◆ 東京アメッシュの利用頻度について、「週に1回未満」が38.1%と最も高く、次いで「週に2～4回」、「週に1回」が22.4%、「週に5回以上（ほぼ毎日）」が17.1%となった。
- ◆ 男女別にみると、「週に1回未満」では男性が36.1%、女性が40.2%と、女性が男性より4.1ポイント高く、「週に2～4回」では男性が24.1%、女性が20.6%と、男性が女性より3.5ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、20歳代では利用頻度が極端に少ないことが明らかとなった。
- ◆ 地区別にみると、「週に1回未満」では多摩地区が41.4%と23区部より5.6%多かったが、「週に5回以上（ほぼ毎日）」でも多摩地区が19.5%と23区部より4.1%多かった。

Q19-2 上記Q18で、「1」を選択された方におたずねします。

(2) あなたは、「東京アメッシュ」をどのぐらいの頻度で、利用されていますか？

以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。

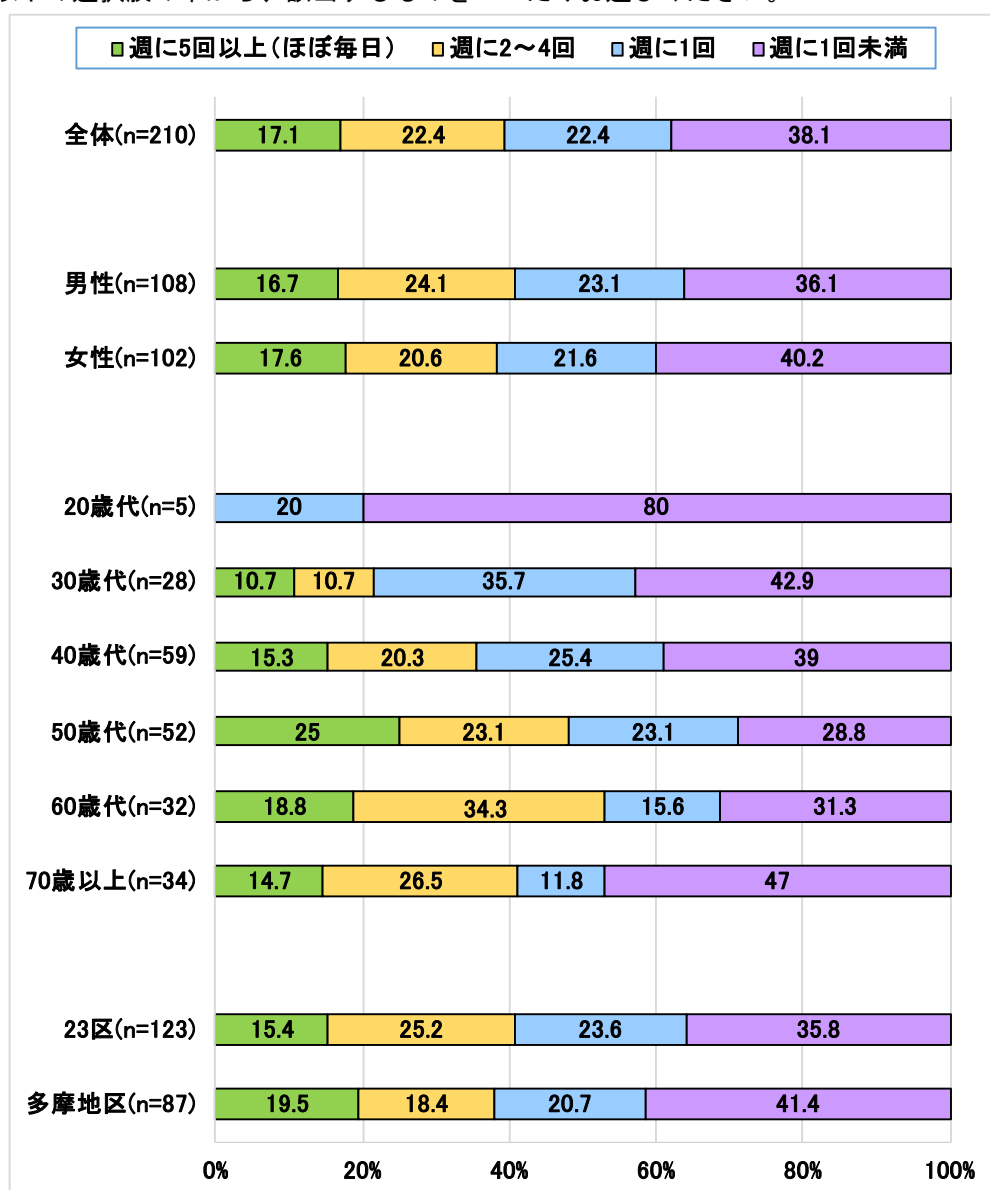


図3-3-3 東京アメッシュの利用頻度

3.3.4 東京アメッシュのGPS活用アイデア

- ◆ 東京アメッシュのGPS活用アイデアについて、「地点登録」の割合17.6%と最も高く、次いで、「遠出・行楽で利用」が17.1%となった。

Q19-3 上記Q18で、「1」を選択された方におたずねします。

「東京アメッシュ」スマートフォン版は、スマートフォンのGPS機能を活用して、地図上の現在地の表示や、任意に登録できる2地点までの降雨状況が一目で把握できるようになりました。この機能を活用したあなたの使い方や、使い方に関するアイデアをお聞かせください。

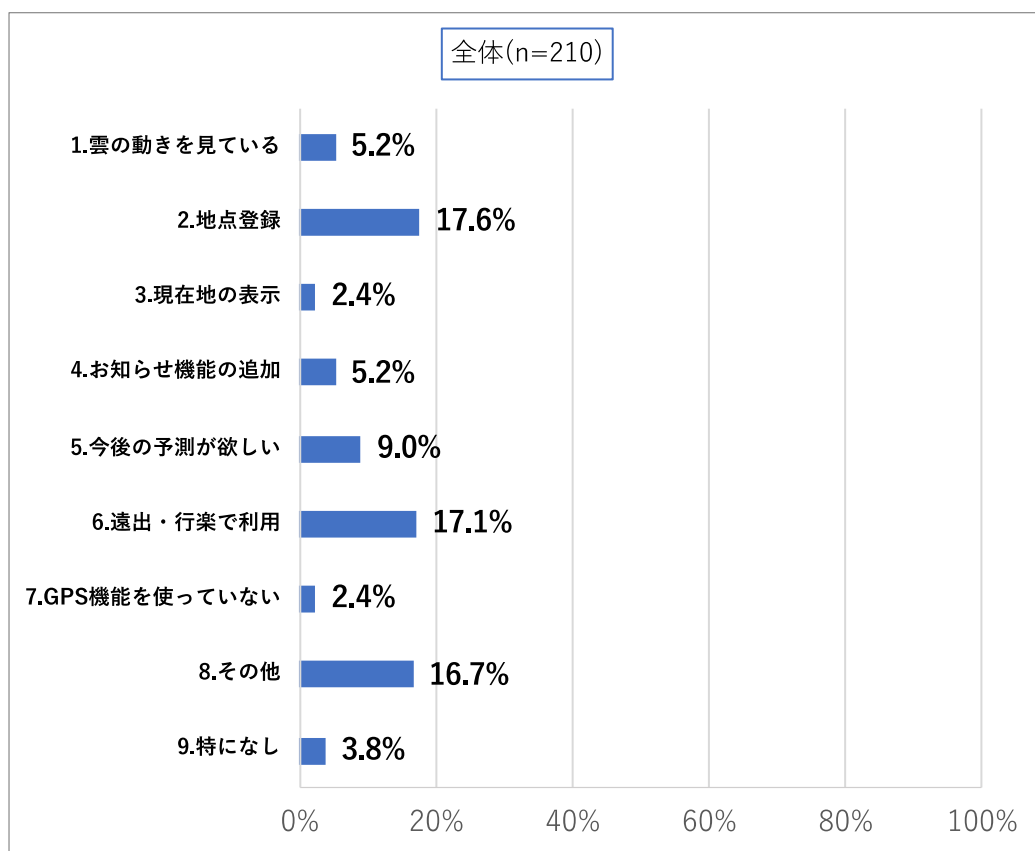


図3-3-4 東京アメッシュのGPS活用アイデア

【東京アメッシュのGPS活用アイデア】

- 職場や実家などを表示、外出時に利用
 - ◇ 職場や実家の雨状況も把握するようにしている。
 - ◇ 自宅と子どもの保育園を登録し、大雨警報が出そうな日は早めにお迎えに行くようにしている。
 - ◇ 勤務地・自宅ともに状況がわかるので、とても助かっている。洗濯物を干すかどうか、外出時に雨具を用意するか迷う時にも利用できると思う。

- お知らせ機能の追加
 - ◇ 登録アドレスへの自動アラート
 - ◇ 大雨や洪水予想のアラート発報。家族の現在地のお知らせや家族への現在地の通知。
 - ◇ 大雨が今後降ると目される地域に GPS の測位がなされたスマートフォンに対してプッシュ型の注意喚起を行う。

- 今後予測が欲しい
 - ◇ 東京アメッシュは、過去の降雨状況の把握には有効であると思う。これをさらに使いやすくするために、他社とタイアップするなどして降雨予測を同じ画面から展開できるようにすると思う。
 - ◇ 河川の状態の表示や過去の表示時間をもっと長くしてほしい。地図範囲を広げてほしい。他社のアプリを参考にして機能を追加してほしい。

- その他
 - ◇ 東京都の地図で、何区かが分からないので、ズームすると区名が出ると見やすい。
 - ◇ サイトになかなかつながらない。特に肝心の雨天の際には尚更。
 - ◇ 地点登録で、郵便番号や住所からも登録できるようにした方が良い。
 - ◇ ダムの貯水率や緊急放水などの情報も併せて知りたい。
 - ◇ 付近の河川カメラ等とのリンク。
 - ◇ リアルに自分の居る場所の動画・写真等を投稿できる様にしては？（近隣住民への注意喚起の観点から）

3.3.5 東京アメッシュを利用していない理由

- ◆ 東京アメッシュを利用していない理由について、「別の気象情報を使用している」の割合が 49.5%と最も高く、次いで「利用方法がわからない」が25.8%、「必要性が無い」が12.5%となった。
- ◆ 男女別にみると、「別の気象情報を使用している」では男性が47.2%、女性が51.8%となり、女性が男性より4.6ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「別の気象情報を使用している」では20歳代が81.8%と最も高く、次いで30歳代が56.1%、50歳代が51.7%となった。
- ◆ 地区別にみると、「別の気象情報を使用している」では23区部が46.6%、多摩地区が52.8%となり、多摩地区が23地区より6.2ポイント高い結果となった。

Q20 上記Q18で、「2」及び「3」を選択された方におたずねとお知らせをします。
 あなたは、なぜ、「東京アメッシュ」を利用しなくなった、又は、利用していないのですか？
 以下の選択肢の中から、該当する理由を一つだけお選びください。

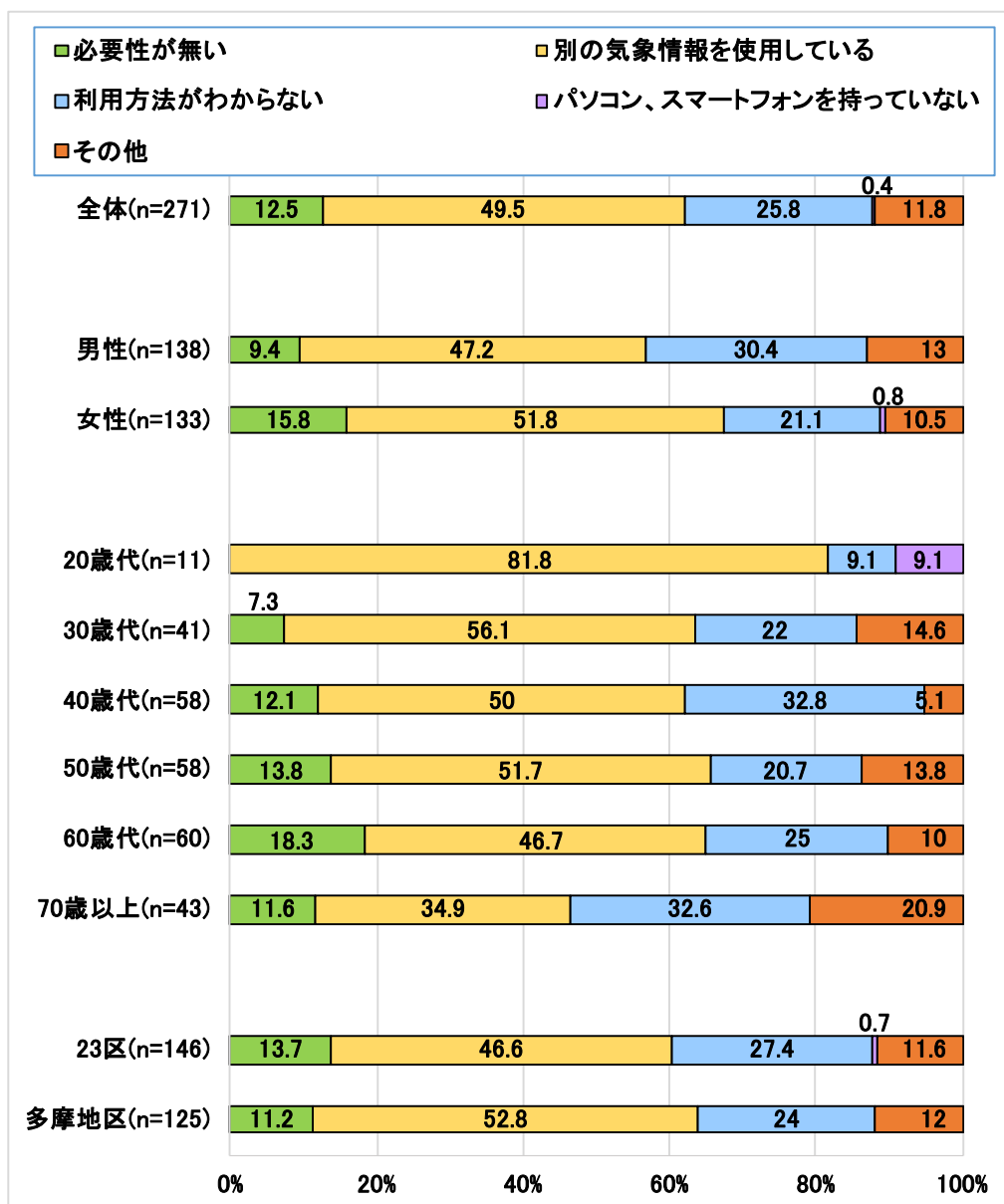


図3-3-5 東京アメッシュを利用していない理由

表 3-3-5 東京アメッシュを利用していない理由（その他）

No	その他(記入例)	件数
1	知らなかった。	8
2	必要時に使う。	4
3	他の天気アプリを使う。	4
4	使い勝手が悪い。	3
5	使い方が分からない。	2
6	前回のアンケート案内を見落とした。	2
7	未来の予報がないから。	2
8	正確でなかったから。	1